
農地・土壌侵食防止対策

手法ガイドブック 5

- 現況診断と開発構想立案手法 -
(A P E C)



独立行政法人 緑資源機構



目 次

第1章 はじめに

- 1.1 持続的開発
- 1.2 参加型農村現況診断手法（DRP）
- 1.3 戦略的環境分析手法（AAE）
- 1.4 APEC とは何か？
- 1.5 目的
- 1.6 前提条件
- 1.7 APEC の段階

第2章 第1段階： 集落における事前の活動

- 2.1 ステップ1：基本情報の収集
- 2.2 ステップ2：APEC を集落に説明する
- 2.3 ステップ3：農民リーダーと一緒に APEC を企画する
- 2.4 ステップ4：集落を階層別に分類する

第3章 第2段階： APEC の準備

- 3.1 ステップ1：APEC 実施チームを編成する
- 3.2 ステップ2：APEC ガイドブックの内容を理解するチームを組織する
- 3.3 ステップ3：現地活動の準備を行う

第4章 第3段階：参加型現況調査

- 4.1 ステップ1：現地踏査
- 4.2 ステップ2：第1回集落ワークショップの実施
- 4.3 ステップ3：キーパーソンへのインタビュー
- 4.4 ステップ4：ケーススタディの実施
- 4.5 ステップ5：収集した情報の整理・考察

第5章 第4段階：戦略的集落診断

- 5.1 ステップ1：第2回集落ワークショップの開催
- 5.2 ステップ2：戦略的集落診断
- 5.3 ステップ3：最終報告書の作成

第6章 第5段階：集落開発計画（構想）の立案

- 6.1 ステップ1：集落開発基本構想(PMC)を立案する
- 6.2 ステップ2：第4回集落 W/S において、集落開発計画(PDC)を立案する
- 6.3 ステップ3：集落総会において、集落の年間活動計画(POA)を立案する

第7章 結論

図表リスト

フローチャート

- フローチャート1：活動戦略スキーム
- フローチャート2：APEC の段階
- フローチャート3：第1段階のステップ
- フローチャート4：第2段階のステップ
- フローチャート5：第3段階のステップ
- フローチャート6：第4段階のステップ
- フローチャート7：第5段階のステップ

表

- 表1：第1回集落ワークショップの活動内容
- 表2：第2回集落ワークショップの活動内容
- 表3：第3回集落ワークショップの活動内容
- 表4：第4回集落ワークショップの活動内容

図

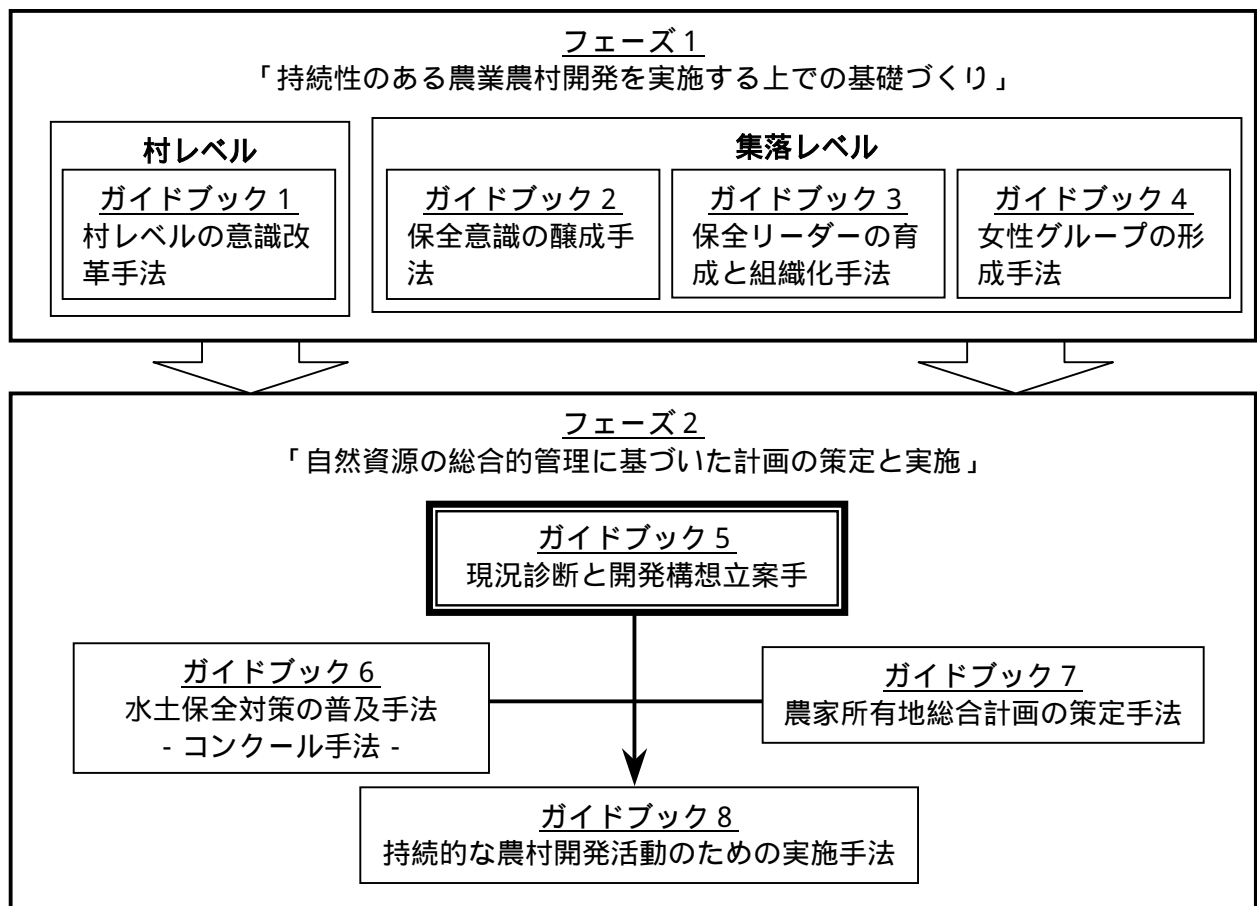
- 図1：カイナカス集落クルクンチ地区の現況概要図
- 図2：パタリヤフタ集落の横断図

第1章 はじめに

現況診断と開発構想立案(APEC)の手法に関する本ガイドブックは、土壌侵食防止対策実証調査で作成した「水土保全をベースにした持続的農業農村開発の実施手法」に関するガイドブックシリーズの中の一つである。この実施手法は、1)「持続性のある農業農村開発を実施する上での基礎づくり」と、2)「自然資源の総合的管理に基づいた計画の策定と実施」の2つのフェーズに分かれている。本ガイドブック5はそのフェーズ2に関するものである。

実施手法の全体の関係を次のフローチャート1に示す。実施手法全体の詳細を把握するためには、ガイドブックシリーズの「総合ガイド」を参照願いたい。

フローチャート1：活動戦略スキーム



「現況診断と開発構想立案(APEC)」に関する本手法は、集落の現況を調査し、次に分析を行い、その結果を基に自然資源の適切な管理を重視した集落の開発計画を立案するための、参加型で実用的な手法である。

村が作成する「村開発計画(PDM)」には集落で優先された活動・事業が企画されるため、集落開発のための戦略的構想を策定する APEC は村開発計画に直接影響を与えることとなる。

APEC の実施には、参加型農村現況診断手法(DRP)と戦略的環境分析手法(AAE)を取り入れている。しかし、ボリビア国内の当該地域における集落の現状にこれらの手法を適応するため、内容を多少変更した。以下に持続的開発に関する概念を説明し、次に DRP と AAE の手法の内容を説明する。

1.1 持続的開発

従来「開発」は、経済的な成長と解釈されていたが、現在では開発は経済成長だけではなく、人間の成長（平等、保健、オーナーシップなど）も含まれることが一般に認められている。これを「人間開発」と呼んでいる。人間開発とは人間の可能性を高めることであり、実際にはこれは生産性向上、平等性、持続性を持たせること、およびオーナーシップを高めることである。すなわち人間開発の目的は、人間が持つ目的や希望と直接関係している。

持続性のある開発を進めるためには、次世代に悪影響を及ぼさないような活動をしなければならない。このためには、人間開発に関する共通の目的に応えられる開発の可能性を生み出し、これらを長期にわたり維持すること、および次世代のために適切な生活環境もつくり出し、これを維持することが必要である。つまり、持続的開発は、人間のニーズや希望に応える目的で、自然資源の利用、投資と技術の方向付け、組織改革などが調和し、現在（そして将来）の「ポテンシャル」を強化することであるといえる。

持続的開発の中では、1) 経済的発展、2) 自然環境の発展、3) 社会的および組織的発展、の3つが柱となっており、相互に関連しバランスを保たなければならない。分析の段階において、持続的開発のアプローチを採用すれば、各レベルにおける「ポテンシャル」を明確にすることができ、意思決定のプロセスの中で環境についても考慮に入れることができる。また、自然環境と社会経済に関する目標を両立できる。これはさらなる経済発展に貢献するだけでなく、社会・環境の発展、戦略的計画に関する政策策定にも貢献する。

人間の生存は、自然に大きく依存している。なぜなら、人間が必要とする「もの」を自然が与えるからである。自然の機能（例えば、農業生産、家畜生産、林業生産、きれいな水の供給などに関する機能）が維持または回復されている場合、自然と人間の関係はバランスがとれているとすることができる。つまり、自然環境と自然資源の利用の間にバランスがある場合、現在の生産活動は将来の生産「機会」に影響しない。



1.2 参加型農村現況診断手法 (DRP)

参加型農村現況診断手法(DRP¹)は、一定の活動・事業に関する全ての関係者の参加を重視した、集落分析のための優れた手法として 1980-1990 年代に現れた。DRP は「将来構想図」のような、特に参加型の視覚教材を多く利用する。DRP の目的は、集落開発計画は自分たちの計画であることを集落農民に意識させるため、集落開発計画のプロセスに集落住民を参加させることである。つまり、DRP の最重要点は集落によるオーナーシップである。DRP を採用して活動を進める者は「ファシリテータ」と呼ばれてい

¹ DRP : Diagnóstico Rural Participativo

る。ファシリテータは、農民自身が、集落が発展しない原因や問題を明確化し、持続的な解決策を生み出すためのサポート役である。

世界各地で実施した DRP の結果、現地の人々は自分達の現状を深くかつ参加型で分析することができることが証明された。このように DRP は、農民が、発展に対する集落の現状を把握し、生活水準を改善するための対策を自分達で生み出し・取り組む（これを「オーナーシップ」という）ための手法として確立された。

DRP は特に参加型の視覚技術を多く利用することでよく知られている。これらのテクニックは、農民から情報を収集し、その後同じ農民にフィードバックするために使用される。集落と自然環境との相互作用に関係したテクニックとしては次のものが良く知られている。

- ・簡易フォームを用いたインタビュー：アンケートよりも自由度のある自由な解答欄を多用したフォーム
- ・年表：集落に伝わる伝承や重要な出来事の経過
- ・踏査：集落のさまざまな情報を得るため、集落内を横断的に踏査
- ・参加型構想図：農民が参加型で集落の将来構想図を作成
- ・季節カレンダー：さまざまな食料生産の可能な時期を示すカレンダー
- ・農家貧富階層分類：集落で使われている資産、所得の考え方に基づく階層分類

1.3 戦略的環境分析手法(AAE)

戦略的環境分析手法(AAE²)は、環境を評価するための手法である。それは、開発計画を策定し検討する際、人間開発の目的に関係して自然環境はどのような「ポテンシャル」および問題を持つかを分析することを目的としたものである。このように、戦略・プログラム・活動などの企画の中に環境に関する要素が含まれ、これが他の要素と最適に統合することが期待される。

AAE は、本ガイドブックのターゲットである集落レベルよりも村・地域・全国レベルの分析に向いているが、集落レベルでも利用できる重要な項目がいくつかある。例えば、

- ・ AAE により、自然環境と開発に関する複雑な要素をより明白に把握することができ、自然環境が持つ「ポテンシャル」を明確にする。
- ・ AAE は、自然資源の利用と管理、そして現地の活動プロセスについて関係者の知識を高める。
- ・ 持続的開発を目指し、集落の開発計画等の中における環境要素の統合性を高める。

AAE では、自然資源の合理的・持続的な管理は、人間の暮らしの基本的な要素であると考えられるため、この手法は本ガイドブックの重要な基本要素となっている。AAE は APEC と同様に、自然資源保全のみの手法ではなく、人間開発のための手法である。APEC では、自然資源の適切な管理をベースにした持続的集落開発を基本としている。

1.4 APEC とは何か？

これまで、自然環境に関する懸念は、通常、環境に対する悪影響を防止するための政策、または点的に実用的な保護・保全の政策に反映されてきた。しかし、健全で多様な自然環境の重要性は認められているとしても、自然環境に関する要素は通常適切に考慮されているとは言いがたい。したがって、AAE のアプローチは非常に重要であるが、集落レベルへの適応の方法や用いる手段に課題があり、DRP はこの課題に対する手法として有効である。

しかし、DRP には AAE と同様に大きな制約がある。それは必要な投資額が高く、期間が長いことである。ボリビアの農村では通常、資金と時間の両方の資源が非常に少ない。APEC では、村の行政が主体

² AAE : Análisis Ambiental Estratégico

となって診断・分析・企画の手法を取り組むことを求めているが、この場合時間と資金は特に限られている。なぜなら、村の予算は少なく、政権は5年間に限られているからである。通常の場合、集落の参加型現況調査を行うため、村はNGOやコンサルタント業者を雇用する。彼らは一般に、現地の者ではなく外部の者であり、正確なデータを収集する責任感に欠け、表面的な現況調査になりがちである。

本活動戦略では、前述の課題を踏まえ、より高い持続性を持った方法を提案している。また、少ない資金と短期間で充実した結果を生み出す手法を作り上げるため、APECではDRPおよびAAEの最も優れた内容を採用している。

APECは本活動戦略を構築する手法のひとつである。活動に参加する農家がAPECの内容を十分理解するためには、APECを実施する前に、自然環境と開発に関する意識を高めるための意識改革プロセス（意識改革に関するガイドブック1、2を参照）を実施しなければならない。

DRPおよびAAEの手法をベースとしたAPECの基本方針は次の通りである。

- ・ 分析および企画のプロセスに多くの集落農民が参加する
- ・ 参加農家の学習を高めるため参加型技法を利用する
- ・ 農民が集落発展に対する自然資源の重要性を理解している
- ・ 企画立案に自然資源管理に関する要素が取り入れられる
- ・ 村の開発計画に含まれる集落活動が優先的に取り込まれる
- ・ 集落および活動機関が投入する資金と期間が最小となる



多くの農民の参加を得て実施されるAPECにより、その結果は集落開発に貢献できる。

1.5 目的

現在ボリビア各地で採用されている地域開発政策や地域開発戦略は、地方分権化により、村が中心となり策定される。APEC の主な課題は、先ず集落の持続的開発計画の中に自然環境に関する要素を取り込むことから始め、次に村レベルの企画や意思決定のプロセスの中で自然環境に関する要素が取り入れられるようにすることである。

APEC が目指していることは、持続的開発プロセスに関するより優れた企画が策定されるよう、自然環境、および支援要請活動に関する集落住民の知識と理解を高めることである。APEC によって各集落の参加者は、自然環境と開発に関する要素の複雑さおよび重要性に関する理解度を高め、これを基に、持続的開発を進めるための可能性を明確にし、集落レベルの活動を企画することができる。

APEC の主な目的は次のとおりである。

- 1) 参加型現況調査および分析プロセスを通じ、集落開発に関する問題や制限、そしてこれらの原因を明確にすること。
- 2) 参加型企画プロセスを通じ、集落開発に関する基本方針を明確にし、具体的な活動を企画すること。

APEC 実施の全プロセスにおいて、自然資源に関する問題点、劣化の傾向、その原因およびその対策に関する集落農民の理解を高めることを通じて、自然資源の適切な管理のために何ができるのかということについて特に重視されるようになることが重要である。

1.6 前提条件

APEC を実施する前に満たさなければならない条件として以下の2つがある。

- 1) 集落の意識改革プロセスを実施すること
- 2) 農民全員が活動に参加することに合意し、各手段や資金に関する約束事を守ること

集落の意識改革プロセスの実施という条件は、開発に対する集落の現状を農民達が分析し、その結果を基に集落全体が合意して活動を企画するという目的を達成するために不可欠である。

また、意識改革プロセスと同時に保全リーダーグループの育成と女性グループの指導も実施しなければならない(各ガイドブックを参照)。APEC を実施する前に満たさなければならない指標に関する詳細は「保全リーダーの育成と組織化手法」(ガイドブック3)を参照のこと。

APEC の実施は、集落が要請しなければならない。つまり、自分達は発展したい、集落の開発に貢献する活動を企画し実施したいという意欲が集落側になければならない。APEC 実施前、集落はガイドブック3に示している意識改革の指標を十分に満たしていなければならないことをここでもう一度強調しておく。また、可能な限り集落で活動している開発機関や他機関(医療や教育分野など)とも調整し、APEC のいくつかの段階において(特にキーパーソンとして情報を収集するために)参加してもらう。

1.7 APEC の段階

APEC 手法は次の5つの段階に明確に分かれている(フローチャート2参照)。

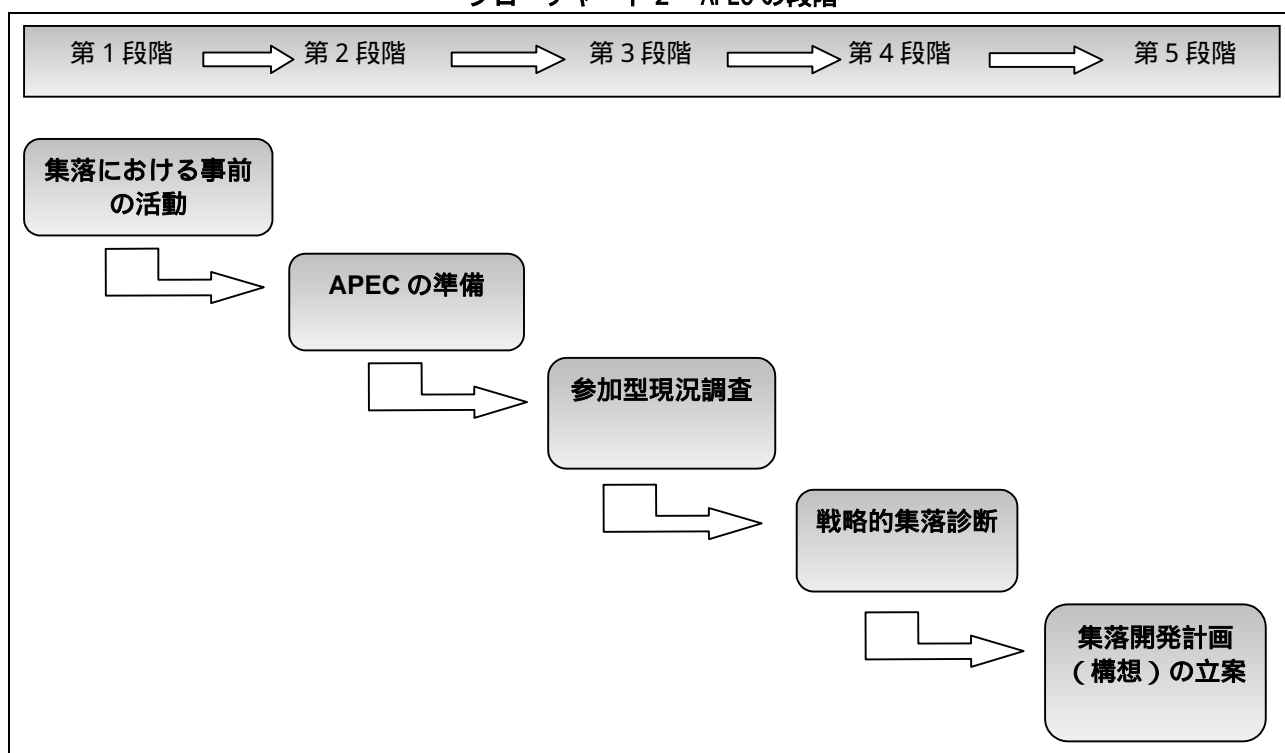
1) 第1段階 集落における事前の活動

この段階では、技術員³は集落の農民リーダーの参加を得て、集落における活動に関する事前の準備をはじめめる。

- 2) **第2段階 APECの準備**
この段階では APEC を実施する技術者チームを構成し、現地における活動に必要な準備と訓練を行う。
- 3) **第3段階 参加型現況調査**
この段階では APEC を実施する技術者チームは現地において集落対象のワークショップを行い、また、ケーススタディ(農家調査)の対象農家およびキーパーソンにインタビューする。
- 4) **第4段階 戦略的集落診断**
ここでは前段階において技術者チームが収集した全ての情報を分析・整理し、結果はワークショップにおいて集落に対して発表する。これを基に農民は集落で生じている主な問題およびこれらの原因を明確にし、解決策を提案する。
- 5) **第5段階 集落開発計画(構想)の立案**
ここでは、戦略的集落診断の結果を基に、集落の開発基本構想(マスタープラン)、そして村の支援で実施できる具体的な活動を含んだ集落開発計画(構想)を策定する。

APECの5段階をフローチャート2に示す。

フローチャート2 APECの段階



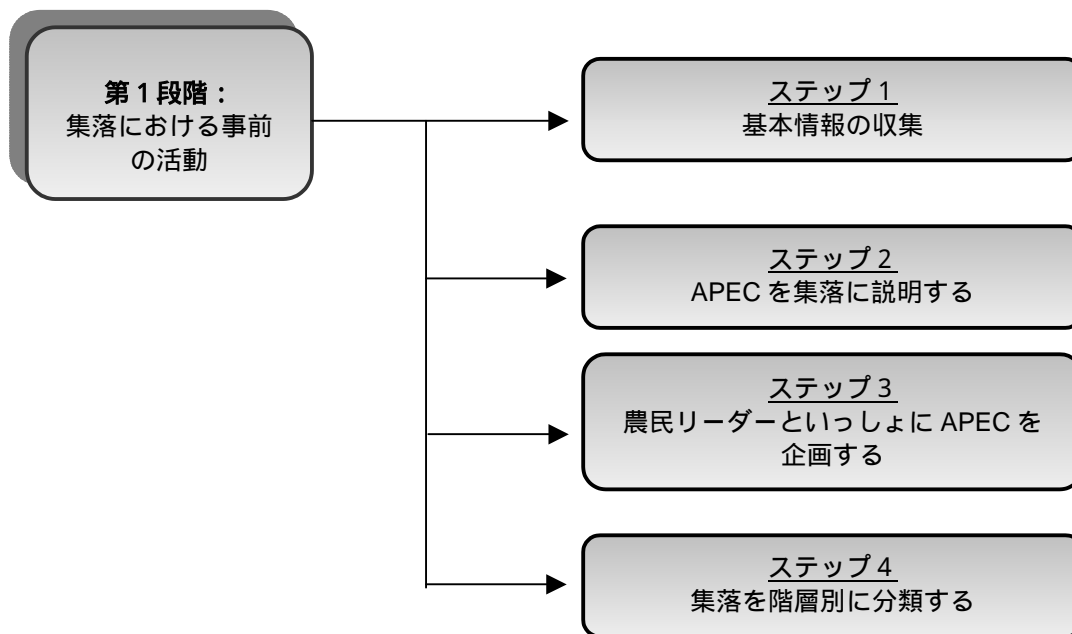
³ 技術員：村または実施機関が雇用する技術者。従来のような特定の技術を普及するだけの普及員ではなく、本実施戦略の全工程を集落住民と共に進めていく役割を担う。

第2章

第1段階： 集落における事前の活動

APEC に関する現地での準備は、技術員を中心に進められる。これはその後の活動の成功を左右する重要な活動である。APEC 実施期間中、地域担当の技術員は責任者となる（3.2「技術員の責務」を参照）。集落における事前の準備に関する活動を次に示す。

フローチャート3 第1段階のステップ



2.1 ステップ1：基本情報の収集

🔑 目的

APEC を実施する技術者チームが利用するための集落に関する情報を収集すること

第1段階では、技術員が中心になって、集落の情報を可能な限り多く収集することが重要である（情報はこの段階に限らず常に収集し、また活動戦略のフェーズ1である「持続性のある農業農村開発を実施する上での基礎づくり」の段階でも同様）。収集する情報は、例えば、過去において集落で実施された現況調査結果、集落の方針、村開発計画書などである。これらの情報は、APEC を実施する技術者チームが現地に入る準備の段階において、集落全体の状況および集落と村が企画している活動などを把握するために必要となる。

これにより、技術員が収集、整理した情報は、APEC の技術者チームが有効利用できるもので、非常に重要である。

経験

現地で活動する機関や団体が過去に整理した情報は存在する。中には十分利用でき細かいデータを含む資料もあり、必要な重要データを提供する。しかし、データは一般的なもので正確でない場合があるため信頼性が低い。失敗を防ぐため、採用するデータは十分に分析する必要がある。



2.2 ステップ2：APEC を集落に説明する

☞ 目的

集落全体の支援を得るため APEC に関する細かい内容を説明すること

活動戦略のフェーズ1のところ、集落の活動計画の必要性についてすでに述べているが、これは APEC 実施段階で初めて具体化する。APEC を実施する前に、技術員は、APEC で行う調査の目的と具体的な内容を農民リーダーおよび集落全体によく説明し理解させなければならない。通常、集落は APEC のような調査に初めて参加するので、技術員は、APEC の内容や特に期間などを農民に明確に説明しなければならない。また、APEC を実施するために外部からの技術者チームが集落を訪問し、約2週間（これは、後述する集落ワークショップ（W/S）1と2の実施に要する期間）現地で活動することも、よく説明しなければならない。

農民が APEC で行われる内容をよく理解し、参加・協力するように、APEC の説明は明瞭で簡単な言葉を用いる。適確な APEC の説明によって、第1回集落ワークショップ(4.2.を参照)への多数の参加者が期待される。

経験

タラワンカ集落の農民は当初、APEC の説明に対して無関心であった。農民は、「これまで同じような調査に何回も参加したが、調査の結果は何にもつながらず、何も実施されなかった」と述べた。しかし、APEC に関するより細かい具体的な内容を説明した結果、農民の考え方が変わった。参加型現況調査を実施すれば、集落の需要が明確にされ、これを基に行政や開発機関に対し集落が必要とする活動・事業の実施を要請することができるメリットがあるため APEC を実施することは重要である、と農民は思うようになった。

農民にとって現況調査を理解することは容易ではないので、例えば、何かと比べたり過去の事例、経験などを用いて説明すると効果的である。



2.3 ステップ3：農民リーダーと一緒に APEC を企画する

☞ 目的

APEC に関する現地活動スケジュールを組み、業務上必要な調整を行うこと

❖ 現地踏査および集落ワークショップの日程の決定

現地技術員は、集落農民の時間の都合や APEC の実施に影響を及ぼす祝日、集落の祭りの日などを適確に把握しているため、研修やワークショップの日程の決定は技術員の責任で行う。

APEC の特徴は、ケーススタディ対象農家（4.4.を参照）を除いて、短時間で素早い現況調査ができることである。大部分の農民は、APEC 実施のため合計4回行われる集落ワークショップに参加する。4回に分けて実施される集落ワークショップのうち最初の2回(APEC の第3段階および第4段階)は、APEC 実施チームが集落を訪問したときに実施される。この2つワークショップに要する時間はそれほど長くはない(本ガイドブック第4章および第5章を参照)。

第3、4回目の集落ワークショップは、集落開発基本構想(マスタープラン)と集落開発計画(構想)に関係したものである。それは、集落で優先される活動の実施の可能性を検討し、それが明確になった後に実施される。

本ステップでは、**第1回目および第2回目**の集落ワークショップの日程を決める。第1回目と第2回目のワークショップの間に APEC 実施チームがデータ収集と結論を出すために必要な期間は、通常約2週間(14日間)である。第2回目のワークショップの日程を事前に決めることが困難であれば、これは第1回目のワークショップを終了する時点で決めても問題はない。

次に、APEC 実施チームと行う現地踏査の日程を決める。現地踏査では、集落を巡り、実際の現状を把握する。現地踏査は、第1回目の集落ワークショップの前日に行うことが理想である(4.1.を参照)。現地踏査の日程を決める際、技術員は同行を依頼する農民も決定しなければならない。現地踏査では、終日現地を歩くため、APEC 実施チームに同行する農民は2、3名程度にする。また、同行する農民は、できれば集落の過去と現状をよく知っている者が望ましい。

本ステップで決定する点は要約すると次のとおりである。

- ・ 現地踏査の日程を決める
- ・ 現地踏査の際に APEC 実施チームに同行する農民を決定する
- ・ 第1回目の集落ワークショップの日程を決める
- ・ 可能な限り第2回目の集落ワークショップの日程を決める

経験

通常、農民は、このようなワークショップは集落定例総会のときに実施するように提案するが、農民がワークショップのテーマに集中し議論するためには、集落定例総会とは違う日にワークショップを実施する必要がある。なぜなら、定例総会では議題が多く、また、ワークショップとは直接関係がなく、夜遅くまで続くため農民は疲れ、問題に対する解決策を考える能力が落ちるからである。この状況では良い結果には至らず、農民は次回のワークショップには参加したくないと思うようになる。



アドバイス

通常、APEC 実施チームに自発的に同行する農民はいない。最終的には農民リーダーが同行する農民を決め、農民はその報酬を求める。このようなことが生じないようにするため、APEC 実施チームのメンバーは最初から農民の緊張をほぐし(アイスブレイク)、農民と「友達」になり、親しくそして対等に扱うことが重要である。



❖ ロジ面に関する決定

APEC 実施チームの現地滞在に関して(チームの宿泊場所から、農家訪問のときの移動手段まで)は全て技術員がサポ-トする。

また、集落ワークショップを開催する場所を決定しなければならない。

2.4 ステップ4：集落を階層別に分類する

☞ 目標

キーパーソンの支援を得て集落農家の階層を分類し、これを基にケーススタディの対象となる農家を選定すること。

❖ キーパーソンの選定

ここでは3名のキーパーソンを農民から選ぶ。技術員を中心に、キーパーソンは集落の階層別分類と、これを基にケーススタディ(4.4.を参照)の対象となる農家を選定する。なお、APECの後の段階では、キーパーソンは農民だけではなく、小学校の先生、診療所の担当医師、集落で活動する開発機関の関係者などの中からキーパーソンを選ぶ必要がある。

この段階での3名の農民キーパーソンは次の基準で選定する。

- ・ 集落に関して幅広い知識がある
- ・ 40歳以上が望ましい
- ・ 自然環境の問題と変化に関する幅広い知識を持つ
- ・ 農民リーダーの経験があること
- ・ 情報提供ができること
- ・ リーダーシップがあること
- ・ 3名が異なる階層に属することが望ましい

APECの成功は、キーパーソン次第であるため、技術員は十分気をつけて選出しなければならない。選定時に農民が「忙しい」、「キーパーソンになりたくない」などの理由で辞退することがないように、キーパーソンの選定は農民リーダーとともに行わなければならない。このため、集落の最も協力的な農民について事前に調査しなければならない。

経験

タラワンカ集落におけるキーパーソンの選定は、一人の農民リーダーを中心に行った。この農民リーダーは集落の状況をよく把握しており、リーダー役を数回務め、リーダーシップのある農民であったため、他の農民の協力は不要であった。選定された農民は自然リーダー、以前から保全に興味を持っていたリーダー、元農民リーダーであった。

キーパーソンは、最初は寡黙で情報の提供に抵抗を示したが、その後、親しく対等に話すことで必要な情報を提供するようになった。

キーパーソンは集落の状況をよく把握しているので、詳細で豊富な情報を提供する。しかし、情報収集が円滑に行われるためには、選定するキーパーソンは外部者(APEC実施チーム)に正確な多くの情報を与えることに消極的ではない農民を選ぶことが必要であることを、技術員が農民リーダーに十分に説明し理解させなければならない。



❖ 農民による集落の階層別分類

農民による集落の階層別分類はとても重要である。なぜなら、これにより社会経済的な違いを明確に示す集落農家の階層別リストが作成されるからである。集落の農家間には、社会経済的な違いが存在し、これらの違いによって興味・希望・可能性も異なるため、階層別の農家リストの作成は極めて重要なことである。例えば、「貧困」に分類されている農家の場合、通常、所有する土地は有機質に乏しく、傾

斜地にあり、灌漑施設がない。逆に「裕福」に分類されている農家の土地は、非常に肥沃で、平坦で灌漑が可能である。このことから、これらの農家を対象にした活動の内容はそれぞれ異なることになる。

技術員は、フェーズ1の活動を通じて、すでに集落農民との信頼関係を築いており、集落の状況を十分に把握しているため、集落の階層別分類が妥当であるか判断することが可能である。APEC実施チームが現地活動を始める前に、技術員は階層別分類をすでに完成していなければならない。このためには、集落の農家組合に加入している農家のリスト（通常、農民組合の書記または総務係が管理している）を入手する。キーパーソン階層別分類を行う際、各農家のカードを作成する必要があるため、リストは本段階で入手する必要がある。

農家の階層別分類の手順は、次のとおりである。

- 1) 集落の各農家の名前が書かれているカードを3名のキーパーソンに渡す。
- 2) 各キーパーソンの基準を基に、カードに書かれている農家を階層別に分類させる（大抵、経済的レベルもしくは暮らしぶりが基準になる）。
- 3) 3名のキーパーソンの分類結果を比較し、違いがある場合は統一するまで議論し、必要な場合、分類グループを変える。この分類はあくまでも、農民（キーパーソン）による集落の階層別分類であるため、階層の数や基準は農民に任せる。しかし、階層は通常、上・中・下の3階層に分けられる。
- 4) キーパーソンに使用した分類の基準を説明させる。キーパーソンは通常、各農家の財産と関係している5~6の基準(以下の例を参照)を使用する傾向が見られる。
- 5) 各階層の特徴を説明させる。

集落の階層別分類の基準（例）

- 所有土地面積
- 所有家畜の種類と数
- 耕作物の種類の数とその品種
- 住居（街・集落）
- かんがい可能な土地の面積
- トラック・トラクター・その他の機材の所有
- 作物生産量
- 子供達の教育場所（街・集落）
- 教育水準
- 食べ物と衣類の種類

アドバイス

集落で実施する活動への協力・支援を得るため、農民リーダーの信用と信頼を得ることが重要である。



経験

タラワンカ集落の農民リーダーは、集落の状況をよく把握しており、農民リーダーを数回務め経験もあることから、集落の階層別分類は、彼を中心に行った。

集落農家は、近所の農家を十分に把握しているが、集落を階層別に分類することに抵抗を示し、農民リーダーや技術員に任せた。



❖ ケーススタディ(農家調査)対象農家の選定

農民キーパーソンによる階層別分類の結果は、ケーススタディ対象農家の選定にも役立つ。ケーススタディの対象となる農家を、リストの中の各階層から同じ戸数を、キーパーソンに選定させる。

集落の農家戸数、集落の広さ、調査に要する時間などを考慮して、社会経済階層ごとに3、4戸の農家を選ぶ。このように、ケーススタディに参加する農家は1集落で合計9戸から12戸となる。階層ごとのケーススタディ対象農家の選定基準は、例えば、家長の年齢、主な生産活動、活発さ、集落行事に対する参加、などである。

次の表に、カイナカス集落におけるケーススタディ対象農家選定に使用した基準を示す。

カイナカス集落におけるケーススタディ対象農家選定の基準

基準	カテゴリー		
農業生態ランク	高い	中間	低い
道路からの距離	道路のそば	離れている	非常に離れている
家長の年齢	30歳未満	30～50歳	51歳以上

ケーススタディ対象農家の選定の際、集落全体を代表するような様々な農家を選定することが重要である。技術員は、集落の農家を知っており、キーパーソンが選定した農家が集落の代表的な農家であるかどうかを判断する重要な役割を持つ。

経験

ケーススタディ対象農家の事前選定は技術員が行い、それを農民リーダーに提示したところ、集落のことをよく知り、リーダー役の経験が長いリーダーは、その中から、情報を与えない農家や態度が横柄な農家を除いた。



アドバイス

ケーススタディのことで他の農家からの疑いが生じないために、ケーススタディの内容は対象農家だけに説明するのではなく、農民リーダーや一般の農民にいつでも説明できるように、収集される情報とそれに使用される調査票の内容をよく把握しておかなければならない。

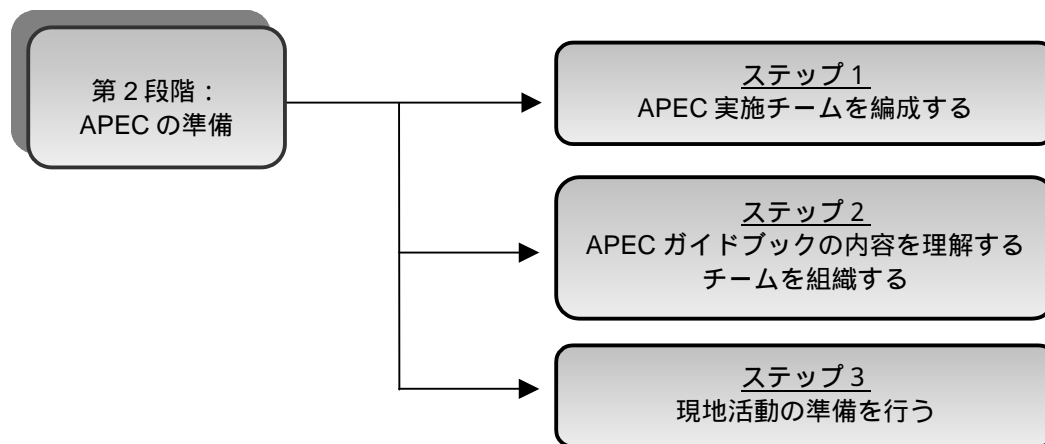


第3章

第2段階： APEC の準備

APEC の第2段階は APEC の準備である。この準備は以下のフローチャートに示す3つのステップからなる。

フローチャート4 第2段階のステップ



3.1 ステップ1：APEC 実施チームを編成する

目的

集落における参加型調査の実施に経験がある技術者チームを編成すること

❖ 契約期間の決定

APEC 実施チームを雇用する前に、実施機関はメンバーの雇用期間を決めなければならない。APEC 実施チームと契約し、最終報告書が提出されるまでは、**普通の大きさの集落(農家戸数が100戸以内の集落)**の場合、最低24日間必要である。契約期間はできる限り短くすべきであるが、農家戸数が100戸を超える比較的大きい集落の場合、訪問する農家が離れている場合が多く、この期間は少し伸びることになる。

ここに示す期間は、不測の事態が考慮されていない。特に現地活動中に、集落の祭り、農民組合の行事や社会問題などの不都合が生じない場合の期間である。したがって、活動戦略の実施を担う技術員は、農家の時間の都合と、これに影響を与える地域の祭りやその他特別なイベントを考慮し、APEC の実施期間を計画しなければならない(2.1を参照)。

❖ APEC 実施チームメンバーの雇用

APEC 実施にあたって必要となるメンバーは3名であるが、大きい集落の場合は、アシスタントとして1名増員することができる。アシスタントは、APEC の最初から最後までいるのではなく、ある段階のみ活動する。APEC 実施チームは、各専門分野の技術者で構成されることが望ましいが、これが困難な場合、各メンバーは少なくとも1つの分野の経験を持たなければならない。

APEC 実施チームの中心となるのは、活動戦略の実施の責任者でもある技術員である。技術員は自然環境および自然資源管理に経験がある**農業技師**であるので、農業分野は技術員が担当する。

技術員の他に、APEC 実施プロセス全体に参加し、そして主に最終報告書の作成の責任を持つ**調整員** 1 名が必要である。調整員の専門は、**農業または経済**どちらでも構わないが、APEC に類似した調査の実施と調整についての経験は必須である。技術員と調整員に、**社会学専門・人類学専門・ソーシャルワーカー**などの社会文化の専門技師が 1 名加わる。そして、APEC 実施チーム編成段階で考慮しなければならないことは、女性の参加である。つまり、チームには「集落開発における女性の参加」のテーマを担当する女性が少なくとも 1 人いなければならない。

大きい集落の場合、以下の 2 つの段階でアシスタントが必要である。

- 1) 参加型現況調査のデータ収集業務を支援する。したがって、アシスタントは、農村地域においてデータ収集の経験がある者で、必ずしも技師でなくてもよい。
- 2) データ整理の段階でデータベースの知識がある者が必要となる(当然ながら、データ整理は収集者が行うことが最も望ましい)。

アシスタントの契約は、調査期間を通してではなく、具体的な業務のためだけに雇用することが重要である。

アドバイス

技術員は編成される APEC 実施チームとともに現地で活動するため、メンバーの選定プロセスには技術員も参加すべきである。APEC 実施チームの現地での活動は、1 日中いっしょに山を歩いたり、同じ場所に宿泊したり、効率的な集落ワークショップの運営などであり、APEC 実施チームのメンバー同士の協力および人間関係は非常に重要なことである。

また、必要な情報と正確なデータを収集するには、APEC 実施チームのメンバーは農民と上手に付き合うことができる人でなければならない。



以下に、APEC 実施チームのメンバーの重要な条件を示している。

本活動戦略フェーズ 1 である「持続性のある農業農村開発を実施する上での基礎づくり」から活動している技術員を除き、APEC 実施チームのメンバーの雇用期間は、集落において APEC 実施に必要な期間を考慮して決める。

APEC 実施チームメンバーの選定にあたって最も重要な条件

- 大学卒業以上の資格を持つこと
- 農村での活動の経験があること
- 現地語(ケチュア語)が話せること
- APEC に類似した調査の実施経験があること
- 現地に滞在できること
- 他の専門分野の技術者とチームワークが保てること
- 参加型手法の知識を持っている
- 報告書作成能力があること
- 信頼関係を築くことができること

3.2 ステップ2：APECガイドブックの内容を理解するチームを組織する

👉 目的

APEC ガイドブックの内容を理解し、現地における活動のためにチームを組織すること

❖ 本ガイドブックの内容を理解する

APEC 実施チームを編成した後、第 1 回目の打ち合わせでは、本ガイドブックの内容をメンバーに理解させる。本ガイドブックで説明している手法（特に、この手法の背景や第 1 段階に示されている概念など）を各メンバーがはっきりと理解することは極めて重要であることを強調する。また、メンバーが持つ疑問について議論を通じて解消し、手法に関する考えは最終的にはメンバー全員で統一しなければならない。

❖ APEC 実施チームの責任の分担

活動内容を明確にした後、各メンバーの責任を明確にする。

技術員は、集落のことをよく把握しており、農民との間に信頼関係があるため(ガイドブック2「意識改革の指標」を参照)、集落と APEC チームとを直接結びつける重要な役割を果たす。APEC チーム各メンバーの具体的な責務は次のとおりである。

	責務内容
メンバー 1 (技術員)	<ul style="list-style-type: none"> - 対象集落および対象農民に関する基本的な情報を収集する。 - 集落の農民リーダーとともに APEC の実施を企画する。 - APEC 調整員とともに集落ワークショップを指導する。 - ケーススタディにおいて、営農と生態系に関連する具体的なデータを収集する。 - 営農と生態系に関連するデータを整理し、報告書にまとめる。 - 集落で生じる問題の解決を図る。 - APEC 実施チームが現地で活動を始める前に、集落の階層別分類を行う。

一方、APEC チームの調整員は、APEC に関する活動全体の調整と最終報告書作成を担当する。調整員の具体的な責務内容は次のとおりである。

	責務内容
メンバー 2 (調整員)	<ul style="list-style-type: none"> - 実施機関側と密に調整し活動を進める。 - APEC 実施チームの打合せを指導する。 - APEC 実施チームのメンバーの活動を調整・監督する。 - 技術員とともに集落ワークショップを指導する。 - ケーススタディにおいて、経済と生産に関連するデータを収集・整理する。 - APEC で収集した全てのデータを整理・考察する。 - APEC の各報告書と最終報告書を作成する。

そして、3番目のメンバーは社会と文化に関連する分野を担当する。3番目のメンバーが女性である場合、APEC 実施の際、集落の女性農民グループに関する問題と可能性を明確にしなければならない。3番目のメンバーの具体的な責務は次のとおりである。

	責務内容
メンバー 3	<ul style="list-style-type: none"> - ケーススタディにおいて、社会と文化に関する具体的なデータを収集する。 - 社会と文化に関する部分の分析、執筆をする。 - 集落の女性グループの活動をスーパーバイズする。 - APEC で収集するデータの整理・考察に関する調整員の業務を支援する。 - 最終報告書作成に関する調整員の業務を支援する。

上記の各任務の区分は厳密ではないが、各メンバーは APEC の各段階で何をするか、実施前に話し合い明確にする必要がある。

3.3 ステップ3：現地活動の準備を行う

☞ 目的

調査チームの内部打合せを行い、現地活動に伴う準備をはじめめる。調査で使用する手法や参加型技法を完全に会得すること。

❖ APEC の手法と参加型技法の復習

この準備段階では、現地活動の際に採用する手法や参加型技法を復習する必要がある。これは、各手法や対策の採用に関するチームメンバーの経験を評価するためにも役立つ。以下、APEC の実施に採用する手法と参加型技法を示す。APEC 実施チームの判断により、他の参加型技法を採り入れることは当然可能であるが、この場合、採り入れる技術は APEC チームメンバーが過去に実際に採用して成功したものでなければならない。

APEC 実施に採用する手法は次の3つである。

- ・ 踏査研修
- ・ 集落ワークショップ
- ・ ケーススタディ(農家調査)

以下に、各手法のときに採用できる参加型技法をリストにして示す。参加型技法に関する詳細は巻末の付属書2および本ガイドブックシリーズ10「参加型研修の進め方」(西語板のみ作成)に示している。

各手法に採用できる参加型技法

手法を採用する際のアドバイス	採用した参加型技法
<p>踏査研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 緊張をほぐし(アイスブレイク)、リラックスした環境をつくること ▪ 率直、オープン、対等な関係を保つこと ▪ 地域で観られる植物や動物の種類を記録すること ▪ 見晴らしがよいところを歩くこと ▪ 大事と思われることはよく見て聞いてメモすること ▪ 集落横断図をつくること 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 直接踏査 ▪ 1対1の情報交換 ▪ 調査票を用いたインタビュー ▪ 集落横断図
<p>集落ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 時間を厳守すること(可能な限りワークショップが始まる数分前に到着していること) ▪ ワークショップの内容を明確に決めておくこと ▪ 必要な資材を忘れないこと ▪ 農民の言葉で話すこと ▪ 農民と信頼関係を築くこと ▪ 創造力を使うこと ▪ 統括、分析能力を持つこと ▪ 他人の意見をよく聞くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 現況概要図(クロッキー) ▪ 将来構想図 ▪ プレーンストーミング手法 ▪ グループワーク ▪ グループの情報交換

ケーススタディ（農家調査）

- 農民の緊張をほぐし(アイスブレイク)、リラックスした環境をつくること
 - 計画した農家訪問の日と時間を厳守すること
 - 農民の話をも根気よく十分聞くように努力すること
 - YES/NO の質問ではなく、複数回答できる質問にすること
 - 農民と話している際、可能な限りメモはしないこと
 - 農家の心情に気をつかうこと
 - 農家の圃場を歩きよく視察すること
 - 農家の言葉で話すこと
 - よく見てよく聞くこと
- 直接視察
 - 1対1の情報交換
 - 調査票ありおよび調査票なしのインタビュー

❖ APEC 実施チームの訓練

APEC で採用する「参加型技法」を復習・分析した後に、これらの技術の使い方について訓練する。訓練の目的は、現地の活動で参加型技法を円滑、かつ確実に用いることである。また、調査票の記入方法について(何をどのように質問し、回答をどこにどのように記録するか)も練習する必要がある(付属資料1を参照)。このため、現地での調査を想像しながら、調査のシミュレーションをする。集落でケチュア語を話すのであれば、シミュレーションもケチュア語で行う。このシミュレーションによって、例えば、調査票の記入漏れや、答えを一言だけで書くことなどのミスをなくさなければならない。

農民と話すときは、農民の教育水準に合わせて簡単な言葉で話すことが大切である。また、このシミュレーションは、チームメンバーがこの技術に慣れるまで繰り返さなければならない。データは、チームメンバー全員が同じ基準にしたがって収集されることが重要である。つまり、ケーススタディの際、チームメンバーが別々に調査を行う場合も、データは同じ方法で収集し、どれも同じ程度の信頼性がなければならない。そうでなければ、収集するデータは調査の役に立たない。

アドバイス

- 練習のために調査票を何枚か記入してみる
- 調査票の内容をそれぞれ細かく見直す
- 調査票に記入する答えは読みやすい字で書く
- 疑問は全て解決しておくこと(例えば、調査の中に出てくる勘違いしやすいまたは混乱しやすい専門用語の意味など)
- 簡単な言葉を使って話す
- チームメンバー1人1人に責任を与える
- 現地活動に必要な資材や道具は事前に準備
- 集落の伝統や習慣を尊重
- 他の活動について約束事をしない



❖ 収集するデータについて

APEC 実施チームの活動内容は、**参加型集落現況調査**(集落ワークショップ、ケーススタディ、キーパーソンに関する APEC の第3段階)を実施し、および集落開発方針策定のための**戦略的集落診断**(APEC の第4段階)を行うことである。第4段階の結果は、第5段階で技術員が作成する**集落開発基本構想**(マスタープラン)および集落開発計画(構想)へつながる。

現地で収集するデータの性質は、戦略的集落診断の質と直接関係している。したがって、参加型現況調査にはどのようなデータが必要であるかを APEC チームメンバーはよく理解することがとても重要である。詳細は第4章と第5章に示すが、要約を以下に示す。

APEC 実施チームが収集するデータについて

全てのデータに関して：問題点・傾向・原因・可能性

・社会的データ

- 1．集落の組織：農民組合、集落事業の内容、組織化しているグループなどについて
- 2．教育分野：就学年数、先生の数、子供・大人の教育水準などについて
- 3．保健分野：集落全体の健康状況、最も多い病気、栄養状態、水道水の有無などについて
- 4．集落における機関の活動について：組織名、活動内容、活動手法など
- 5．将来に関する農民の希望について

・経済と生産に関連するデータ

- 1．土地所有状況：階層別の所有面積、所有権の状況などについて
- 2．農業生産：耕作物、使用している営農技術、生産物の質などについて
- 3．家畜生産：飼養している家畜の種類、数、品質、健康状態などについて
- 4．その他の収入創出活動：傾向、問題、原因、機会
- 5．集落の生産基盤：既存のインフラ、これらに対する農民のアクセスなどの問題、原因、機会

・自然環境に関連するデータ

- 1．集落の気候と生態系的条件について
- 2．土壌資源：土壌の使用(管理)状況、現状、有効性などについて
- 3．水資源：水の使用(管理)状況、現状、有効性などについて
- 4．植生資源：植生の使用(管理)状況、現状、有効性などについて

❖ 情報源の決定

現地の状況をよく把握している技術員を中心に、APEC 実施チームは情報収集源を決めなければならない。つまり、必要な情報はどこからどのようにして集めるかを決める。主な情報源を示す。

- ・ 集落ワークショップ
- ・ ケーススタディのために選定した農家
- ・ キーパーソン
- ・ 現地踏査
- ・ その他の情報源

最初の4つの情報源は、直接的な情報源であり、現地滞在中 APEC チームはこれらの情報源を上手く活用しなければならない。直接的な情報源から収集する情報の他に、APEC チームは、技術員が収集しておいた補足データ(2.1 を参照)も十分に見直さなければならない。補足データは、現地に持参し、空いた時間に見直すととても役に立つ。

情報収集で重要なことは、信頼できる情報源から情報を集めること、可能な限り集落の歴史やこれまでに集落で起きた変化をよく知っている人から情報を集めることである。ケーススタディ対象農家選定の際、このことをよく考慮し、協力的である農家、信頼できる情報を提供する農家を選定しなければならない。

次に、収集するデータの情報源の例を以下に示す。

情報源

	情報源					
		集落 ワークショップ	ケーススタディ	キーパーソン	現地踏査	その他の情報源
社会的データ	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
経済と生産に関連するデータ	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
自然環境に関連するデータ	1					
	2					
	3					
	4					

経験

- ・ 植物の名称は、様々な資料において一般名称やローカル名で書かれているが、学名が書かれていない。同じ植物は、地域によって名称が異なることがよくあるため、学名が書かれていないと読者はどの植物かが分からない。これは家畜や作物の病名や害虫の名称も同じである。
- ・ 情報源によってデータが異なることがよくある。そしてデータが間違っていることもよくある。例えば、ある資料ではタラワンカ集落の総面積は 8 km² と書かれており、ヤンパラエス村の資料では 160 km² と書かれているが、両方とも間違いである。
- ・ タラワンカ集落は 1974 年にモジェプンク集落から分離、自治体として独立し、2002 年の INE(ポリビア統計局)のセンサスでも調査されているにもかかわらず、センサスに関する INE の統計資料にはタラワンカという集落は存在しないことになっている。

❖ 活動計画の策定

現地で実施する APEC に関する活動の内容をよく把握した後に、本準備段階において、最終的な活動計画を策定する。技術員は、第 1 回目の集落ワークショップの実施日(2.3 参照)などをすでに農民と計画しているため、この計画策定に技術員の参加は必須の条件である。

APEC 実施期間(約 24 日間)をベースに、現地活動と報告書作成の期間を分け、計画を立てる。タラワンカおよびパタリャフタ集落における APEC 実施では、現地活動に 9 日間、報告書作成に 15 日間要した。

活動の計画例

APEC の 日数	段階	ステップ	内容	場所	責任者	
.	1	1	(補足の)情報収集	現地	技術員	
		2	APEC に関する集落での説明会			
		3	農民リーダーといっしょに APEC を企画する			
		4	集落を階層別に分類する			
.	2	1	APEC 実施チームを編成(雇用)する	机上	実施機関 (またはプロジェクト)	
1		2	APEC ガイドブックの内容を理解する、 チームを組織する			
2 3		3	現地活動の準備を行う			
4	3	1	現地踏査を行う	現地	APEC 実施チーム	
5		2	第 1 回目の集落ワークショップを行う	現地	APEC 実施チーム	
6		3	キーパーソンのインタビュー ケーススタディの実施	現地	APEC 実施チーム	
7						
8						
9						
10		4	データの整理と考察	机上	APEC 実施チーム	
11						
12		4	1	第 2 回目の集落ワークショップを行う	現地	APEC 実施チーム
13						
14						
15						
16						
17						
18	4	2	戦略的集落診断	机上	APEC 実施チーム	
19						
20						
21	3	最終報告書の作成	机上	APEC 実施チーム		
22						
23	5	1	第 3 回目の集落ワークショップを行う	現地 および 机上	APEC 実施チーム	
24						
.						

APEC の活動計画に関するアドバイス

- ・ 実施する各活動は、APEC 実施チーム全員で調整し、企画すること。
- ・ 現地活動は、技術員とともに企画すること。
- ・ 活動を始める前に、APEC 実施チームは、技術員に基本データを求め、基本情報を把握しておかなければならない。
- ・ 現地の活動を始める前に、APEC 実施チームは、技術員から集落の階層別分類を入手し、内容を十分把握しておかなければならない。
- ・ APEC の活動計画は、実施チームメンバー全員が同意した内容でなければならない。
- ・ 活動計画には、実施する活動全てが含まれていなければならない。
- ・ 活動に必要な移動手段、資材、道具を整理し、手配・準備すること。



アドバイス

農業と生態系に関する現況調査では、集落の状況に関する詳細で正確なデータを必要とする。そのため、現地をよく視察する必要があり、現地踏査は、農業と生態系に関するデータを収集する絶好の機会である。また、社会・経済・文化に関する情報を収集する際、農民に不快感を与えないため、質問の聞き方には十分気をつけなければならない。

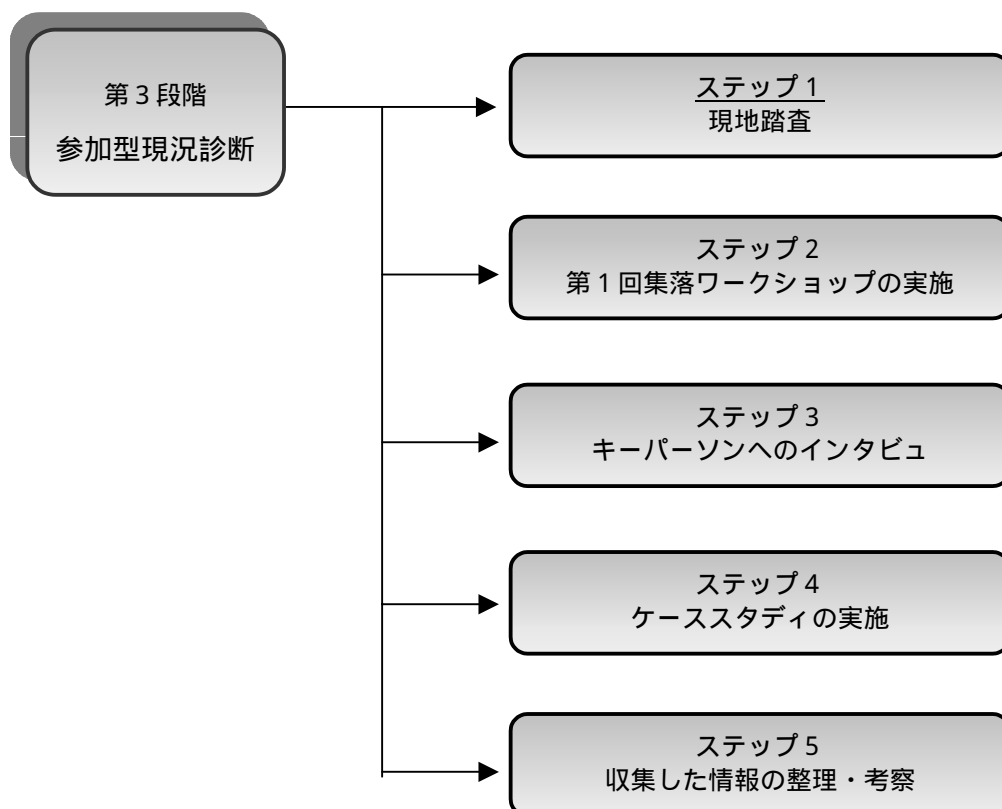


第4章

第3段階：参加型現況調査

ここでは、現地における活動を始める。APEC 実施チームは集落に入り、1日目は現地踏査、2日目は第1回集落ワークショップを実施する。参加型現況調査の内容は、APEC 実施チームによる現地での活動であり、その後に第4段階として戦略的集落診断を実施する(第5章を参照)。APEC の第3段階は次の4つのステップからなっている。

フローチャート5 第3段階のステップ



ひとつ重要なこと！

この第3段階で APEC 実施チームが集落参加型で情報を収集するにあたり、次の点を必ず考慮しなければならない。

- ・ 問題点は何か
- ・ どのような傾向があるか（またはどのような変化が見られるか）
- ・ 原因は何か
- ・ どのような可能性があるか

本段階では、APEC 実施チームは常に情報収集に集中し、上記に関する詳細な内容を求めること。

4.1 ステップ1：現地踏査

👉 目的

自然資源の管理と劣化、インフラ設備に関する集落の状況を実際に見て把握すること

このステップでは APEC 実施チームは集落の状況を把握する。現地踏査に関する日程などの計画・調整・準備は、集落をよく知っている技術員が事前に行う(2.3 を参照)。また、現地踏査に同行する2、3名の農民も、踏査の目的をよく理解していなければならない(これも技術員の責任である)。

現地踏査の目的は、集落を知ることであるので、集落に関する様々なことを同行する農民に聞くためには、仕事以外の話もして親しくなる必要がある。実施チームは現地踏査によって集落の状況を把握し、それは次に行われる第1回集落はワークショップに反映されることとなり(4.2 参照)、集落に関するより具体的なアイデアを持ってワークショップを進めることができるようになる。現地踏査で実施する内容は(1)景観分析と(2)横断図作成である。

次に、現地踏査の具体的な活動を示す。

❖ 景観の分析

これは、生態系および集落状況全体(位置関係や特徴などすべて)を把握する目的で、周りの景観を直接踏査により観察することである。このため、集落を見渡せる高い位置から観察し、分からない点を同行農家に聞く。見聞きしたことは、忘れないために全て書き留める。集落における各地域、川や道路、そして水源地の配置を把握するため、ポンチ絵を描くとよい。

集落の広さと集落の高い位置までの距離、地形にもよるが、この活動は3、4時間程度かかる。

図1に対象集落の現況概略図の例を示す。

❖ 横断図作成

景観分析を終えた後に、集落の図を描いた場所を始点とし、様々な農生態系地域が入るように、例えば川や学校などを終点とする道のりを決める。歩いている間、途中にあるもの(植物、建物など)をよく見たり、同行農家に聞いたりして記録していく。このようにして、集落のいろいろな景観、耕作地、放牧地、森林などを把握できる。

集落を横断することで、水源の場所、植物の移り変わり、侵食が激しい場所なども把握できる。また、同行の農民や途中で出会う農民と話しをすることで、土壌・水・植生に関する変化または傾向などについても把握できる。

この結果は、集落のプロフィールとなる。地域ごとに各指標の内容を示す(図2を参照)。

この活動には約半日かかる。(特に同行農家に)時間の余裕があり不都合がなければ、横断図をもう1つ作る。

この段階では、集落の水源地を明確に把握する。そして可能な限り横断図作成中にその水源地も踏査することが望ましい。

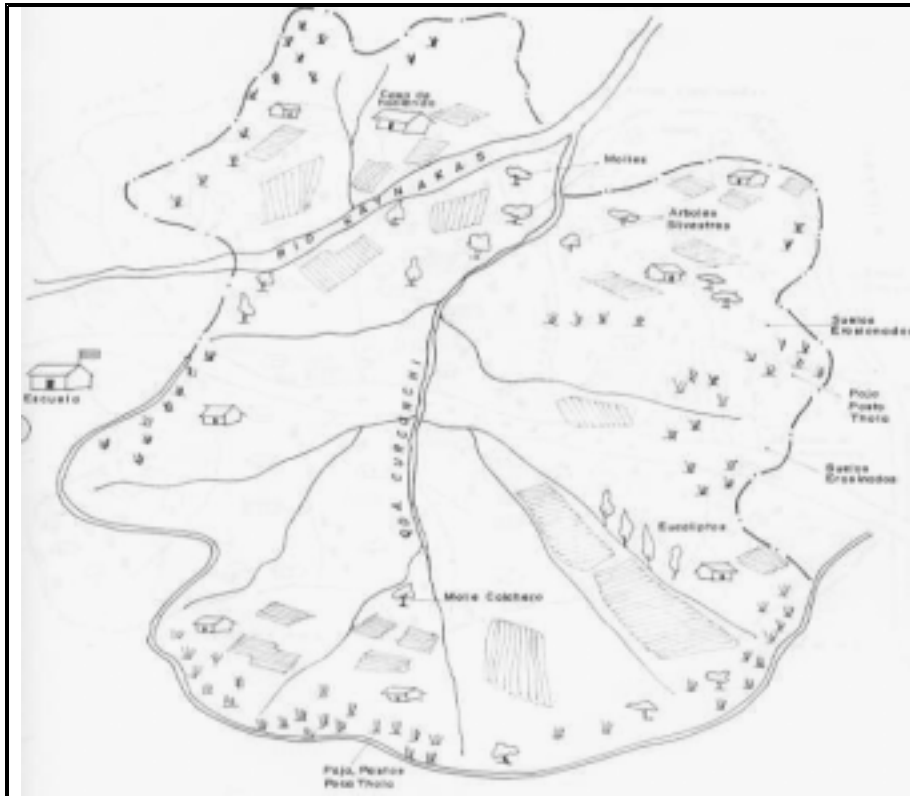


図1 カイナカス集落クルクンチ地区の現況概略図

アドバイス

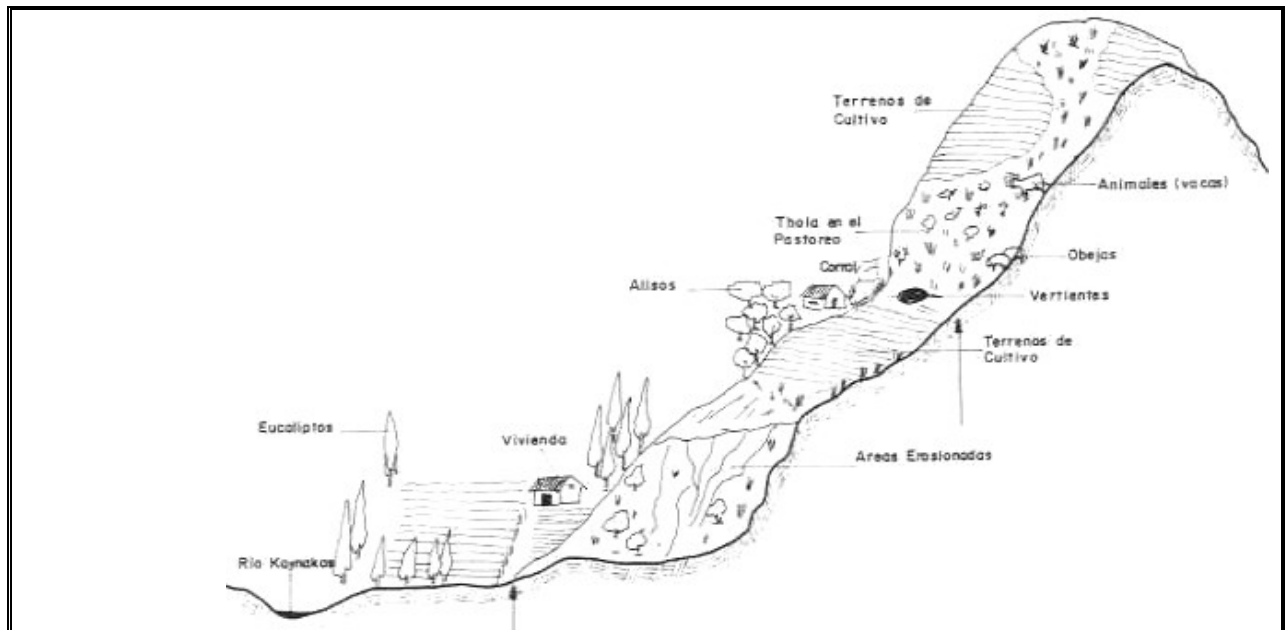
集落をよく知っている農家といっしょに集落を歩くのは最初で最後かも知れないため、同行の農家に、集落に関して聞きたいこと全てを聞くことが重要である。農家はいつも細かい内容までよく説明する。そして、この機会に、土壌、植物、家畜、作物やその他をよく見ておくことも重要である。



経験

- ・ パタリャフタ集落の現地踏査には、集落の農民リーダーとボランティアで参加した農家が同行した。ボランティア農家のうち、一人は女性であった。女性は男性と違った観点での考え方や意見を述べ、重要な貢献をした。これまで、女性の参加は考慮していなかったが、このような調査では考慮すべきだと思われる。
- ・ タラワンカとパタリャフタの両集落の現地踏査には、農民リーダーが同行した。同行者は、APEC チームに協力的だったが、調査の重要性をよく理解していなかったため、「まだ歩き続けるのか」、「絶対にあの場所まで行かなければならないのか」、「疲れていないか」、「なぜ我々の食べ物のことまで聞くのか」、など何回も APEC 実施チームのメンバーに質問し、メンバーはひとつひとつ根気強く繰り返し答えた。





指標 場所	低地	中間	高地
土壌	準平地、土層浅い、灌漑あり	急傾斜、乾燥、表層・ガリ侵食	急傾斜、表層・ガリ侵食
植生	林木まばら、灌木、草木少ない	林木、灌木、草本の劣化段階	灌木、草本の質が悪化
栽培	バレイショ、トウモロコシ、小麦、モモ	バレイショ、トウモロコシ、小麦、大麦	オカ、バレイショ、トウモロコシ、小麦、大麦、キヌア
水源	カイナカス川	渓流水	渓流水はほとんどない
家畜	牛、羊、やぎ、ロバ、豚、鶏	牛、羊、やぎ、ロバ、豚、鶏	牛、羊、やぎ、ロバ、豚、鶏
問題	ガリとウネ侵食の土壌侵食問題が非常に進んでいる土地が多い。植生は非常に少なく、まばらである。水は少ない。	水食によりガリ侵食が進んでいる土地が多い。植生は比較的多い。水は少ない。	中程度の土壌侵食が生じている土地が多い。植生は少ない。水は非常に少なく、人間と家畜の飲み水だけしかない。
ポテンシャル	かけがえのない水を利用したかんがい水確保	渓流水の利用	植林に適した気候と土壌

図2 バタリャフタ集落の横断図

4.2 ステップ2：第1回集落ワークショップの実施

☞ 目的

集落ワークショップにおいて、特に自然環境のテーマに重点を置いた集落の現状および変化に関する情報を農民から収集すること

このステップでは、第1回目の集落ワークショップを開催する。ワークショップは、1) APEC 実施チームの紹介と APEC の内容の説明、2) 特に自然資源に関して集落の現状を農民に診断させる、の2つに分かれている。

ワークショップの内容の計画を表1に示す。

本ワークショップの所要時間は約4～5時間であり、開始時間は、農民の時間の都合を把握している技術員に任せる。


表1 第1回集落ワークショップの活動内容

時間(分)	活動	具体的な内容
15	W/Sの開会、チームの紹介	W/Sを開会し、APEC実施チームメンバーが自己紹介をする。
25	目的の説明	調整員がAPECおよびワークショップの内容と目的を説明する。
30	グループ構成	3、4つのグループを作り、各グループのモデレータ役を1人決める。
150	グループワーク	集落で起きている変化について議論し、結果をまとめる。
20	休憩	
60	全体会議、議論	グループの結果を参加者全員に発表し、議論する。
15	調整、閉会	次のワークショップの日程を決める。W/Sを閉会する。

❖ W/Sの開会、チームの紹介

ここでは、農民リーダーが集落農民に開会の辞を述べ、W/Sを開会する。場合によって、このようなワークショップを開催するとき、農民リーダーは参加者の出席を確認する。

次に、APEC実施チームのメンバーが自己紹介をする。自己紹介は、当然ながら現地の言葉で行う。その際、メンバーは農村活動の経験を述べると良い。なぜなら、農村で活動した経験があるということは、農村集落の状況と農民の生活のことをよく知っていることを意味するため、農民はこれである程度安心するからである。

	<p>経験</p> <p>パタリャフタ集落のワークショップでは、開会を行った農民リーダーはこのようなイベントの経験があまりなかったため、どうすればよいかよく分からなく、開会の挨拶が非常に長なり、なかなかチームメンバーに話をさせなかった。</p>
---	---

❖ 目的の説明

集落農民が、APECに関する活動内容をよく把握し各段階で協力することが重要であるため、調整員は全体の目的を十分に説明しなければならない。ここでAPEC実施チームの現地滞在期間の説明を忘れてはいけない。

ワークショップだけではなく、現地活動全体においても、APECの内容と期待される結果についてAPEC実施チームは明確に説明し、透明性のある行動をする。多くの場合、説明が不十分であり、または正確でないため、農民は誤解し、これが集落に広まり、農民は参加または協力しなくなる。例えば、ケーススタディのために対象農家を選定するが、集落全体の農家を対象にすることはできない。選定された農家に具体的な理由を正確に説明しなければ、選定された農家は、他の農家に悪いと思い、みんなを参加させなければ自分はAPECに協力しない、と主張する事態も起こる。

APECに関する活動で重要な点は、APECとは関係のない他の活動や事業に関して、農民と約束事を一切してはならないことである。例えば、実施機関や他機関の援助事業の実施など、農民が期待してしま

うような約束（話さえ）をしてはならない。このような相手に期待を持たせるというやり方は、時として情報収集に非常に役立ち、使いたくなるが、これは信頼関係に係わるため、絶対にしてはならないことである。APEC の目的は集落の現況調査を行い、その結果を基に実施可能な活動・事業を提案・企画することであり、活動・事業の実施に関する約束をすることではない。

アドバイス

APEC の目的を明確に現地の言葉で説明することは重要である。APEC では具体的に何をするか、参加型現況調査を実施することで集落の状況と需要が明確にされ、これをもとに行政や開発機関を対象に必要な活動・事業の実施を要請することができるメリットがある、ということを農民に理解させる。

ワークショップ開始当初、農民はおとなしく、質問やコメントはしないが、だんだんと積極的に参加するようになる。



APEC 実施チームメンバーの自己紹介と、APEC の目的を説明した後、ワークショップの目的を説明する。この場合も、農民がよく理解できるように分かりやすい言葉で説明する。また、ワークショップで採用する手法についても説明する。

❖ グループ構成

グループワークを行うため、参加者全員を3～4のグループに分ける。グループ構成では、次の表のように性別、年齢を考慮する。

性別、年齢別のグループ構成

性別	年齢	
	若者 (35 歳未満)	大人 (35 歳以上)
男性	グループ 1	グループ 2
女性	グループ 3	(グループ 4)

構成されるグループは、1) 壮年の男性だけのグループ、2) 青年男性だけのグループ、3) 若い女性だけのグループ、4) 壮年の女性だけのグループ、の4つである。実際には、ワークショップに参加する女性が少ないため、若い女性と壮年の女性はひとつのグループを構成する。女性の人数が少ない場合には2つのグループに分ける必要はない。

性別および年齢の違いによって集落に関する考え方や希望などが異なるため、農民をこのようなグループに分ける。例えば、壮年グループは「今の若者は怠け者で、以前実施していた保全対策に興味がないため集落の自然資源は劣化している」と考える。一方、青年は、「壮年の人たちの考え方は古く営農を近代化したがない、また自給生産が唯一の希望である」と考える。

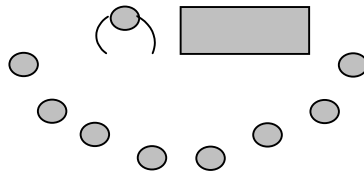
女性の考え方には、男性のそれとは異なる点がある。例えば、女性は自然資源の劣化に関しては、「現代の女子は学校に行かなければならないため、家畜の面倒を見る時間が減ったことで家畜の頭数も減らされ、これが原因で土壌中の有機質が少なくなり劣化している」と考えている。だが、女性のニーズは、通常自然資源の劣化というテーマとは無関係で、食料問題の解決など短期間のものや、水道などの基本ニーズの解決と関係していることが多い。

経験

パタリャフタとタラワンカ集落のほとんどの農民は読み書きができない農民で、ワークショップの際、APEC 実施メンバーは農民の意見や考えを聞いて書くというサポートをした。このことで作業時間を有効に活用することができた。

アドバイス

農民には、あまり意見を述べない者と、いつも自分の意見を述べたがる者がいる。モデレータが、テーマに関するグループ参加者の意見を求めることができるようにするため、椅子をU字型や半月状に並べると良い。このように並べると、一人一人の意見が聞きやすく、全員が参加できる。



❖ グループワーク

グループワークを始める前、各グループで代表者を1名選ぶ。この代表者は読み書きがよくできる農家であることが望ましい。グループ代表者は、グループディスカッションのときにグループを指導し、全員の考えや意見を模造紙に書いていく。ここでの APEC 実施チームの役割は、各グループのディスカッションの内容が相違しないようにすることである。

グループワークには模造紙、テープやマジックなどを使う。構成された各グループは、異なる場所でグループワークを行う。グループワークでは、次に示すテーマに関する現状、過去10年の変化（またはその傾向）についてグループ内で議論する。

- ・ 水資源
- ・ 土壌資源
- ・ 植生資源
- ・ 農業生産
- ・ 家畜
- ・ 集落の人口
- ・ 気候

以下に各テーマに関する質問の例をいくつか示している。

グループワークの議論のテーマおよび質問例

要する時間(分)	テーマ	質問例
20	水資源に関する変化	- 泉、川、沢などはどのように変わってきたか。 - 変化の原因は何か、変化は農家の生活にどのように影響しているか。
30	土壌資源に関する変化	- 昔と比べて、今の土地は良くなった・悪くなった・変わらないか。 - 昔と比べて、農地面積は変わったか。小さくなった・大きくなった・変わっていないか。 - 変化の原因は何か、変化は農家の生活にどのように影響しているか。
30	植生資源に関する変化	- 集落の木や灌木はどのように変わってきたか。昔より多いか、少ないか。昔より大きいか、小さいか。 - 牧草地はどのように変わってきたか。昔より多いか、少ないか。 - 変化の原因は何か、変化は農家の生活にどのように影響しているか。
30	農業生産に関する変化	- 主作物の収量はどのように変わってきたか。以前より多い・少ない・同じか。 - 作物の新品種は何か。なくなっている品種は何か。 - 変化の原因は何か、変化は農家の生活にどのように影響しているか。
20	家畜に関する変化	- 主な家畜の生産性はどのように変わってきたか。以前より良い・悪い・変わらないか。生まれる子は以前より多い・少ない・変わらないか。副産物（乳、毛など）は以前より多い・少ない・変わらないか。 - 変化の原因は何か、変化は農家の生活にどのように影響しているか。
10	集落人口に関する変化	- 現在の集落人口はいくらか。 - 過去 10 年から 15 年の集落人口の数。 - 集落の農家戸数。 - 人口。 - 人口の変化の原因は何か。
10	気候に関する変化	- 通常、最初の降霜はいつ頃生じるか。最後はいつ頃か。 - 降霜は年に何回生じるか。 - 降霜の被害を受ける作物はどれか。 - 通常、雨は何月頃に降り始めるか。何月頃に降り終わるか。 - 地域では雹は降るか。それはいつ頃か。 - 風が最も強い時期はいつ頃か。 - 過去 10 年から 15 年前におけるこれらの気象状況はどうだったか。

集落のほとんどの農家は、本活動戦略のフェーズ 1 である「持続的開発に関する農民の意識改革」のワークショップに参加しているため、自然資源に関する十分な知識を持っているはずである。特に、保全リーダーは、自然資源に関する知識を十分積み上げており、他の農家に教えることが可能である。だが、本ワークショップでは、保全リーダーだけが話すのではなく、グループの他の参加者にも参加させることが重要である。

集落の自然資源に関する全体の状況を把握し、各問題の原因を明らかにするためには、グループワークはとても有効である。

❖ 休憩時間

グループワークは正午近くに終わるため、15～20分の休憩時間を設け、この間に全員が食事をすると良い。

❖ 全体会議と討論

グループワークの次に、全てのグループを集め、全体会議を始め、各グループの代表者はグループワークの結果を全員に発表する。発表された内容についてみんなで討論し、集落の現況およびこれまでおきた変化に関する最終的結論を出す。

全体会議での議論の際、APEC 実施チームは集落で生じている状況の傾向を明確にするように努める。つまり、討論の焦点は、昔と今の状況、その変化の原因と傾向に関して農家が意見を出し合うことである。例えば、昔と比較すれば土壌の肥沃度が以前より低くなっている。だが生産性は変わっていない、という意見が挙げられた場合、今は改良された種子を使っている、または使用している肥料は土壌侵食を軽減しているなどの原因が考えられる。

自然資源のテーマを強調し、集落に関する全ての質問をするため、APEC 実施チームは本ワークショップを有効に活用しなければならない。

経験

グループワークにおける女性の参加は積極的であり、重要な意見を述べるが、全体会議におけるこの参加は極端に少なくなる。その原因は、農家の中に、男性上位と男女差別が生じているからだと思われる。男女差別をせず、全員が意見を述べるように、APEC 実施チームは、農家をうまく動機付けなければならない。



ひとつ重要なこと!

予想できる問題

- グループ構成に時間がかかること
- グループワークに必要な文房具が十分に準備されないこと
- グループディスカッションにおいて農家が参加しないこと
- グループの中で積極的に参加する者が1、2名だけで、意見が偏ってしまう
- 議論の内容が技術者に誘導される

このような問題を避けるためにはどうすればよいか

APEC 実施チームは、事前に決めた基準に従い、効率良くグループを構成し、グループワークをすぐに始めるために農民を指導することが必要である。また、グループワークをすぐに始めるためには、模造紙などの必要な文房具は、事前に準備しておく。

グループの農民が積極的に参加しない場合、アイスブレイクや電話のテクニックなどを活用し、農民に自信を持たせ、積極的に参加させるようにする。

意見誘導によって結論が歪曲される可能性があるため、APEC 実施チームは、農民が自然に意見するように適切な支援をしなければならない。

❖ 調整、閉会

全体会議で議論を終えた後、APEC 実施チームが集落で行う活動について農民に疑問がないように、内容をもう一度繰り返し十分に説明し、第1回集落ワークショップを閉会する。特に、キーパーソンが事前に選定した農家だけを対象に実施するケーススタディについては、繰り返し説明しなければならない

い(2.4 を参照)。ワークショップ閉会の際、ケーススタディ対象農家への訪問の日程について、各農家と調整する。選定された農家が、ケーススタディに参加することに合意していなければならないことは当然である。合意しない場合、同じ階層の他の農家を選定する必要がある。

経験

カイナカス集落では、ケーススタディ対象農家の参加を確実にするため、農民リーダーおよび集落全体の農民が合意し、ケーススタディ実施期間中、対象農家は共同事業における労力の提供が免除された。

本ワークショップの終了前、第2回集落ワークショップの日程を決め、次回も是非参加するように、また今回参加しなかった農家も連れてくるように伝える。
本ワークショップの結果は、第2回ワークショップ時に全員に発表する約束をし、ワークショップを終了する。

経験

タラワンカ集落でワークショップ開催していたとき、農民の参加は散発的であったが、突然年輩の農民が立ち上がり大きい声で、「APEC 技術者は我々の仲間だ。なぜ誰も質問も参加もしないのか？技術員はたくさんを知っている。彼らは我々を指導するためにきているのだ。我々は質問をしてもっと参加すべきではないか。若い者は読み書きができていろいろなことを知っているのだから、若者ももっと積極的に参加しなければならない」と述べる場面があった。

第1回集落ワークショップで APEC の目的を農民に理解させた結果、ギジェルモ・バリエホス氏は「私は APEC の実施に賛成だ。その結果をもとに集落のための事業を支援機関に要請することができる」。

パタリャフタ集落における第1回集落ワークショップを終了する際、どの農家も「現況調査について話したことが、全て実現されることを期待している」と述べた。

4.3 ステップ3：キーパーソンへのインタビュー

目的

適切に選定されたキーパーソンから、集落に関する具体的なテーマについて情報を収集すること

キーパーソンへのインタビューは、集落全体の状況を把握するために必要な情報収集に役立つ。また、集落の自然資源に関して、現在起きていることや今後の傾向をより深く理解するためにも役立つ。このため、キーパーソン以外に、小学校の先生、診療所の関係者、活動機関の関係者などからも新たに情報を収集する。

APEC 実施チームは、現地滞在中にできる限り情報を収集する。本ステップの情報収集と次のステップのケーススタディはほぼ平行して実施する。夜や休憩時間などにキーパーソンと接する機会がある場合は、すぐに情報を収集することを心がける。したがって、情報収集計画を立てる必要はない。

このようにして収集した情報は全てその後に実施する、1) 集落の参加型現況調査 2) 戦略的集落診断段階の戦略の方針策定(第5章を参照)に役立つ。

❖ キーパーソン：農民

APECの第1段階で、すでにキーパーソンとなる農民を選定している(2.4.を参照)。

第3段階では、APEC実施チームは、これらのキーパーソンにインタビューをする。集落に関する基本的なデータを収集する目的で、キーパーソン以外に、集落状況をよく把握している他の農家をインタビューすることもできる。

生産活動、気候、集落住民の特徴など、集落に関する複数のテーマについてキーパーソンから情報を収集するため、3名のキーパーソンを同時にインタビューする。インタビューで収集する情報の項目は、その後ケーススタディ対象農家から収集するものと同じである(4.4 および付属資料1にあるケーススタディ用の調査票を参照)。

アドバイス

キーパーソンにインタビューする際、集落の歴史に関する情報も収集することもできる。このため、土壌・植生・気候・農業生産・家畜生産・人口などの複数テーマに関して、過去数年において集落で生じた変化についてキーパーソンから情報を集める。集落に重要な影響を及ぼした出来事(例えば、ひどい旱魃や降雹、出生、死亡など)の時期(年、月)を明確にする。

経験

農民は通常、内気であり、家畜の数や作物の収量に関する質問をされると明確に答えないことが多い。特に、現金収入について聞くと、答えは現実より少ない金額であることが多い。インタビューをしていくにつれて、それぞれの農家の情報が確認されていく。

❖ 小学校のキーパーソン

この場合のキーパーソンは、小学校の先生たち全員であるが、特に現地の小学校で長く働いている先生達のことである。先生達からは次に示す教育関係の情報を収集する。

- 通学人数(性別、学年別)
- 教育施設の状況
- 教育に関する現地の問題点
- 先生の人数とその教育水準
- 学生の中途退学率
- 教育を支援する組織の活動について
- 集落住民の参加程度

経験

パタリャフタ集落におけるキーパーソンインタビューの際、小学校の先生はほとんどが新しい先生で、学校の創設記念日さえ知らず、「農民リーダーに聞いてください」と答えた。

❖ 診療所のキーパーソン

診療所のキーパーソンとは、集落にある診療所の担当者のことである。集落に診療所がない場合、農民が通う集落に最も近い診療所の担当者のことである。このキーパーソンから収集する情報は、次のとおりである。

- 集落農民に見られる最も頻繁な病気
- 病気の原因とその治療法
- 幼児の栄養不良状態（性別）
- 予防対策
- メディカルサポートサービス
- 医療サービスに関する傾向
- 医療機材の有無
- 伝統的治療法の使用
- 応急手当や予防対策に関する農民への指導
- 集落における人材の育成

❖ 現地で活動する機関のキーパーソン

この場合のキーパーソンとは、集落内で活動している各機関の技術員のことである。これらの技術員と現地で出会う機会が少ないため、必要に応じて本部事務所まで訪ね、インタビューする。活動機関の技術員から収集する情報は、次のとおりである。

- これまでに生じた技術支援の提供内容の変化
- 現地で使用する技術の変化
- 生産基盤施設に関する変化
- 活動方法の種類
- 階層別、地域別の受益者
- 活動の効果
- 活動に対する集落の反応(農民の組織、責任感、その他)

経験

現地で活動するいくつかの機関は、機関内で扱っている情報をよく把握していないことがあり、有益な情報を得にくい。この場合、様々な機関が現地で実施している活動・事業を明確にすることは困難である。

4.4 ステップ4：ケーススタディの実施

👉 目的

社会・経済・生産・自然環境に関する情報を各経済階層の農家から収集すること

ケーススタディは APEC の基本であるため、対象農家へのインタビューは十分注意しなければならない。ケーススタディでは、最も詳細な情報が得られるため、インタビューはできるだけ厳密に行うことが重要である。

ここで収集する情報は、集落の社会・経済・生産・自然環境に関する傾向を明らかにし、これは APEC の最終成果品である戦略の方針の策定に貢献する。つまりケーススタディで収集する情報を基に、集落における各種の傾向を推定し、問題点を明確にし、これらに対する戦略の方針の案を策定することができる。

❖ 収集すべき情報について

ケーススタディで得られる情報は非常に多く煩雑である。対象農家をインタビューする際に使用する調査票などを付属資料 1 にまとめた。

収集する情報は、以下に示しているように、集落の社会・経済・生産・自然環境に関する情報である。APEC 実施チームは、それぞれに関して、問題点・傾向・原因・可能性についてまとめなければならない。

ケーススタディで収集すべき情報を繰り返し次に示す。

<ul style="list-style-type: none">・ 社会に関するデータ<ol style="list-style-type: none">1. 集落組織：農家組合、共同事業、組織化グループなどについて2. 教育：学年、先生の人数、子供達と大人の教育水準などについて3. 保健：全体の状況、最も頻繁に見られる病気、栄養状態、水道水へのアクセス4. 現地で活動する機関について：機関名、活動内容、活動手法など5. 将来に関する農家の希望・展望などについて
<ul style="list-style-type: none">・ 経済と生産に関するデータ<ol style="list-style-type: none">1. 土地所有状況：階層別の所有面積、所有権の有無などについて2. 農業生産：作物の種類、営農技術、生産物の品質などについて3. 家畜生産：家畜の種類、頭数、品質、健康状態などについて4. その他の生産活動について：民芸品、出稼ぎなどについて5. 市場および販売：市場アクセス、生産物販売の可能性、販売価格などについて6. 集落の生産基盤：存在する生産基盤の種類、使用権などについて
<ul style="list-style-type: none">・ 自然環境に関するデータ<ol style="list-style-type: none">1. 集落の気候と農生態系地域2. 土壌資源：土壌管理、土壌の現状、利用できる土地、土地の品質3. 水資源：水資源の管理、水資源の現状、利用できる水資源、水質4. 植生管理：植生資源の管理、植生資源の現状、利用できる植生資源、植生の品質

❖ ケーススタディの実施にあたっての留意点

農家とできるだけ親しく会話すると、より信頼性のある情報が得られる。したがって、農家を訪問する際、調査票は出さないことが望ましい。このため、APEC 実施チームは調査票の内容をよく覚え、データ記入は農家との会話の後に行う。インタビューのときテーブルコーダを使うと便利である。下に、調査票記入に関するキーポイントを示す。

- ・ 農民は自分の家にいると安心し自信を持つため、必ず農民の家を訪問して、インタビューをしなければならない。また、同時に農民の住居の特徴、実際の生活状況、近辺にある耕作地の状況なども観察できる。

- ・ 農家を訪問するにあたって事前に訪問の日時を農家に知らせる必要がある。これにより、農家は他の予定と重ならないように時間の調整ができる。対象農家の訪問の日程は、第1回集落ワークショップにおいて計画する(4.2を参照)。
- ・ 調査票は、農家とのインタビューが終わってから記入すること。テープレコーダを使用するとよい。
- ・ 農家は通常、面積の感覚がないため、所有する土地面積が分からないことが多い。こういう場合、種子の使用量が分かれば、土地の面積の計算が可能なので、面積のデータを得るためには、播種時の種の使用量を聞くとよい。

経験

- ・ 自宅を訪問する日を農家に知らせていたにもかかわらず、当日、急用ができたとの理由で主人が不在で、妻しかインタビューできなかったケースが数回あった。妻をインタビューすると、「それは夫しか知らない」と言い、最初はなかなか質問に答えなかったが、インタビューを進めるにしたがって、だんだんと自信を持つようになり、率直に答えるようになる。外部者が集落に来て農家の財産などについて質問をすると、農家は税金を払わせるための調査であると思い、情報の提供に抵抗することがよくある。
- ・ ある対象農家を訪問したときは、ケーススタディの質問に答えられるような状態ではなかった(酔っ払っていた)ケースもあった。
- ・ 裕福と分類されている農家をインタビューしたとき、「自分達は他より非常に貧しく、土地面積が小さいので援助してほしい」と示していたが、実際土地を見て見るとそうではないことを確認した。したがって、農民の答えを、実際に見て確認することはとても重要なことである。



❖ ケーススタディで起こる可能性がある問題

次に、ケーススタディで起こる可能性がある問題の例を挙げる。

- ・ 対象農家に訪問日を事前に知らせておいたにもかかわらず、当日誰もいない。
- ・ 特に金銭的なことに関する情報は、正確に教えない傾向が農家にある。したがって、対象農家から得る情報は正確でない。

訪問予定日に対象農家が自宅にいなかった場合、もう一度農家を訪ね、新たな日程を決める。それでも農家と連絡がとれなければ、代替りの農家を決める。

農家の答えに疑問がある場合、違う質問で確認するか、またはキーパーソンから得た情報で確認するとよい。これにはAPEC実施チームメンバーの経験がカギとなる。

経験

第1回集落ワークショップにおいて、APEC実施チームは開発計画を企画するだけであると農民によく説明したにもかかわらず、ケーススタディ対象農家を訪問したとき、ある女性は、「耕作地の近くに小さな沢があり、時期的に水が流れるので、それを利用し、かんがいができるためポンプを援助してほしい」と要望することがあった。



❖ インタビューにあたっての留意点

- ・ 対象農家訪問の際、すぐにインタビューを始めるのではなく、まずは、例えば今年の収穫は良かったかどうかなど、日常生活に関する短い会話をし、農家の緊張をほぐす。
- ・ 農家の訪問は2時間程度で、できるだけ短くする。
- ・ 子供達やその他家計の状況をよく把握していない者から情報を収集してはならない。
- ・ 極めて特殊な場合を除いて、選定した対象農家を APEC 実施メンバーの独断で他の農家に代えてはならない。
- ・ APEC 実施メンバーが、「自分は農民より何でも知っている」というような考え方で農家をインタビューすると、誤った認識を持つことになる。このため、逆に、「自分は何も知らない、農家が言うことが真実である」、というような考え方でインタビューしなければならない。
- ・ 農民が質問をよく理解しない場合、理解するまで根気強く、他に例を挙げながら、繰り返し説明する。
- ・ 質問に対する答えを予め出してはならない。

4.5 ステップ5：収集した情報の整理・考察

☞ 目的

参加型現況調査で収集した全ての情報を整理、考察し、集落に発表すること

現地活動後、APEC 実施チームは収集した全ての情報を整理し、考察を行い、その後、結果を集落に発表する(5.1.を参照)。この作業には約4日間かかるため、時間を有効に利用し効率よく活動しなければならない。ここで行う考察は、最終的なものである必要はなく、第2回集落ワークショップに必要な情報をまとめられれば十分である。

データ整理の際、ケーススタディとキーパーソンから得た農民の証言を特に重視する。農民の証言は、集落の現状をよく把握するため貴重であることから、最終報告書(5.3を参照)に盛り込む必要がある。

データの整理と考察は、APEC 実施チームの作業進捗状況に応じて、並行もしくは別々に行うことができる。

収集したデータの考察は、APEC では極めて重要である。収集した情報を基に、APEC チームは、集落の現状に関して現地で感じたことや確認したこと、そして集落の発展に対する支障は何かをよく分析・議論する。

第2回集落ワークショップにおいて、一貫性のある情報を農民に発表するため、APEC 実施チームの考察能力は非常に重要であるが、ここでは、農民の観点からの考察を行い、チームの意見は最低限にする。

APEC 実施チームは、1)集落の最も重要な問題点、2)これまで集落で生じた変化、の2つを明確にしこれを次のワークショップにおいて、農家に発表しなければならない。この時点で、各種問題の原因、そして解決の可能性、の2つに関するチームの考えは十分に整理されているはずである。だが、この2つについて、農民が議論するのは、次のワークショップの時点であるため、ここでのチームの考えはまだ最終的なものとして扱ってはならない。

次に、ここで行うデータの考察について、より詳細に説明する。

1) 集落の最も重要な問題

集落の最も重要な問題(集落の発展を妨げている問題)は、先述したように農民やキーパーソンおよび APEC 実施チームが明確にした問題である。第1回集落ワークショップの結果を使用し、特に集落の自然資源に関する問題をとりあげる。

考察の際、各種問題が**現在集落に及ぼしている影響**を明確にしなければならない。どの農家(階層別、男性・女性・若者・年寄りなどの農家グループ)がどの問題を重要と思うかを示さなければならない。

全ての情報は、参加型現況調査を構成する一部であり、各種問題が集落の発展にどう影響しているかを把握するために役立つ。



APEC において、過放牧と水食のような環境に影響を与える最も重要な問題の確認が行われた（トモロコ集落）

次に、集落で生じている自然環境関係の問題の例をいくつか挙げる。

自然資源に関する集落の問題の例

- 泉における利用可能な水資源の減少
- 安心して飲める水の減少
- 土壌の肥沃度の低下
- 放牧地帯の減少
- 食糧生産の低下
- (飼料用) 植被の品質低下
- 薪の減少
- 植被の減少
- 農地の休耕期間の縮小
- 森林面積の減少

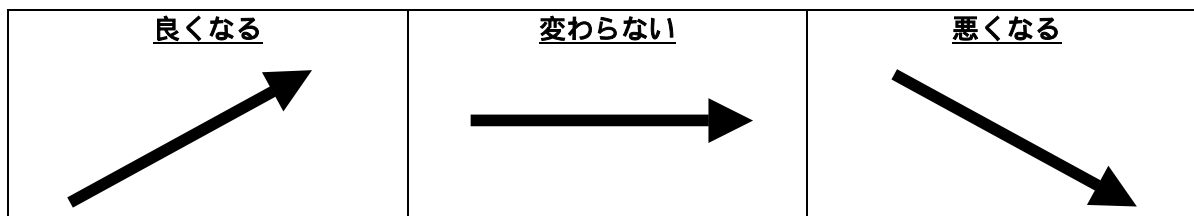
ここでは、集落の最も重要な問題、つまり集落の発展と関係している問題だけを扱う。集落の発展と無関係な問題や、一部の農民グループまたは一部の地域だけの問題は避け、集落全体と関係する問題だけに集中する。

APEC 実施チームが行った分析の結果を、第2回集落ワークショップ(5.1を参照)において発表するときに、農民がこれを誤解せず正しく理解できるようにするため、可能な限り考察はシンプルにしなければならない。

2) 問題の変化

明確化した問題の過去数十年の変化を調べる。これには「傾向」の考え方を利用し、問題は以前より「良くなった」、あるいは、「悪くなった」、または「変わっていないか」を調べる。傾向は矢印を用いて表現することができる。

特定の問題が集落の発展にどのような影響を及ぼしているかを把握するために、問題の変化および傾向の明確化は極めて重要である。



一時的な問題や従来から存在する問題などがあるため、全ての問題が明確な傾向を持つとは限らない。

3)問題の原因

自然資源環境関連問題の原因の例

人的原因

- 草地における過放牧
- 森林伐採と植被減少
- 耕作には不適切な土地の利用、作物保護のための土地の利用
- 農地の休耕期間の縮小
- 耕作地の不適切な管理
- 水源地の汚染

間接的原因

- 人口増加
- 補助金・手当、クレジットの不足
- 農業の代替職が少ない
- 労働力の不足（出稼ぎのため）
- 土地所有政策
- 文化的習慣
- 市場アクセスが悪い
- 市場価格
- 集落の組織が不十分である
- 農民リーダーの不足
- 機関同士の協力不足
- 行政・機関のビジョンが不十分
- 家族計画の意識が不十分である
- 教育水準が低い、環境に関する意識が不十分である
- インセンティブに対する依存が高い
- 非識字率が高い
- 村や機関の活動資金が少ない
- 農業家畜生産活動に対する村のサポートが少ない
- 機関の活動に対して集落は無力である

明確にした問題の原因については、第2回集落ワークショップにおいて、農民の参加を得て議論するが、ワークショップの前に APEC 実施チームは、最も重要な「原因」に関する考えを整理しておかなければならない。問題の原因は、人的原因（人間活動が原因）と間接的原因の2つに分かれる。間接的原因は、直接感じとれないことが多い。APEC 実施チームは、これらの原因を明確にすることに努めなければならない。なお、上記の「人的原因・間接的原因の例」は集落で明確にされた社会・経済・生産に関係する問題にも応用される。

様々な自然環境に関する問題の原因は、社会的問題と生産経済に関する問題とに分類できる。このように、問題の原因を分析することで、問題が複雑であることと、問題と原因の間の関係が明らかになる。問題の原因を分析することは、最終的には総合的な解決策を探ることになる。

APEC 実施チームは、問題と原因を混同せず、できるだけ簡素に問題を分析しなければならない。ひとつの問題が他の問題の原因であることがよくあるが、次のワークショップのときに農家が混乱せずに理解するように、結果をまとめることがチームの課題である。

4)問題解決に活用できる地域の持つ各種の「機会」について

問題分析の最後の段階では、明確化した問題を解決するために活用できる地域の「機会」（解決策）を分析する。これは、ある活動を実施するために必要な条件が揃っているかどうかを明確にすることであり、現在集落では活用していない（または、小さい範囲だけで活用している）が、農家の生活改善に貢献できるような「機会」を明確にするひとつのプロセスである。

集落が持つ「機会」を適性に評価するためには、地域の各種の「機会」を明確にすることはとても重要である。ここでいう地域の「機会」とは、**自然環境に関連する「機会」**（例えば、集落で利用可能な水資源がある）、**経済と生産に関連する「機会」**（例えば、需要が高い一定の農畜産物が集落で生産できる）、**社会に関連する「機会」**（例えば、女性の学習能力）、の3つである。

以下に、集落の「機会」の例をいくつか示す。

活用すべき「機会」の例

<p>1) 経済的生産に関する「機会」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 営農の強化（バイオ菜園、肥料の使用など）・ 適切な営農対策を取り入れる（土壌保全対策、堆肥づくりなど）・ 農業以外の職業（民芸品、木工など）・ アグロフォレストリに関する活動、苗木生産活動（家族苗畑）・ 養蜂、果樹生産（両方とも販売用）・ 小企業（農畜産物を加工する）
<p>2) 社会的にみた「機会」</p> <ul style="list-style-type: none">・ 現地で活動する諸機関が提供する研修を活用する・ 教育水準を高める（環境教育も含む）・ 集落および農民グループレベルで水資源を合理的に使用すること（貯水タンク、ため池など）・ 水問題を防ぐため水利用に関する法律もしくは規則をつくる・ 所有権を与える（土地所有権）・ 森林規則をつくる

次に、地域の「機会」を分析する際、APEC 実施チームは農民に対し以下のような質問をする。

- ・ それぞれの分野に関して、集落にはどのような「機会」があるか。
- ・ 集落の「機会」を活かす活動を実施した場合、どのような利益が得られるか。
- ・ 集落の「機会」を活かす活動を実施するために、今あるものは何か。

- ・ 集落の「機会」を活かす活動を実施するためには、どのような制限があるか。
- ・ 集落の「機会」はどのような活動に活かすことができるか。
- ・ 制限をなくすためには何が必要か。
- ・ 集落の「機会」を活かす活動を実施した場合、悪影響を及ぼす可能性はあるか。
- ・ この悪影響を防止するためには、何が必要か。
- ・ 集落の「機会」を活かす活動を実施するために必要な支援ができる機関はどれか。

次に、上記の質問に対してカイナカス集落で挙げられた農民の回答の例をいくつか示す。

地域の「機会」の利用に関する質問と回答の例

質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業分野に関して集落にはどのような「機会」があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川や農家の住まいの近くに泉がある。これらをうまく活用することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この「機会」を活かす活動を実施した場合どのような利益が得られるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適期播種)ができる。年に2回収穫することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この「機会」を活かす活動を実施するためには、今あるものは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来通りに使用している水資源が数カ所にある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この「機会」を活かす活動を実施するためには、どのような制限があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水源地の土地所有権
<ul style="list-style-type: none"> ・ この「機会」はどのような活動に活かすことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模のかんがい設備を造り、かんがい用水と農家畜生産に利用する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 制限をなくすためには何が必要か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落の農民リーダーおよび水源地の所有者農家と相談し、協定を結ぶこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この「機会」を活かす活動を実施した場合、悪影響を及ぼす可能性はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作地を適切に管理しなければ(保全対策を取り入れなければ)、土壌侵食が悪化する可能性がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ この悪影響を防止するためには、何が必要か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受益者農家を対象にかんがい設備の運営（およびかんがい用水の管理）に関する研修を実施
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落の「機会」を活かす活動を実施するために必要な支援ができる機関はどれか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村、その他の行政機関、NGO する。

ここでは、集落が持つ「機会」について深く分析する必要はない。これは、第2回集落ワークショップにおいて議論を通じ、農家がそれを明確にするので、APEC 実施チームはここで、集落が持続的開発

プロセスに入るため何ができるか、に関する考えを事前にある程度整理する。ワークショップで明確にされる集落の「機会」は、その後、戦略の方針を策定する APEC の第 5 段階で利用する。

経験

カイナカス集落で実施した戦略的集落診断の結果、地域は次のような「機会」を持つことが明らかにされた。



- ・ **自然環境と関連する「機会」**
現在はほとんど利用されていないが、集落には多くの水源地がある。
- ・ **経済と生産と関連する「機会」**
カイナカス集落はスクレ市の市場に近い
- ・ **社会と関連する「機会」**
集落の組織が確固としており、農家組合は農民を召集する力があり、集落の男女農家が積極的に参加する



ひとつ重要なこと!

この段階では、1)集落の問題 2)これまでの変化、の2つに関する最終的な整理とまとめができており、1)問題の原因と、2)集落の問題を解決するためには何ができるか、に関する考えが整理されていなければならない。

以上で、参加型現況調査に関する APEC 第 3 段階の考察作業が終わる。ここまで得た結果を基に、APEC 実施チームは、最終報告書の大部分をまとめる(5.3 を参照)。

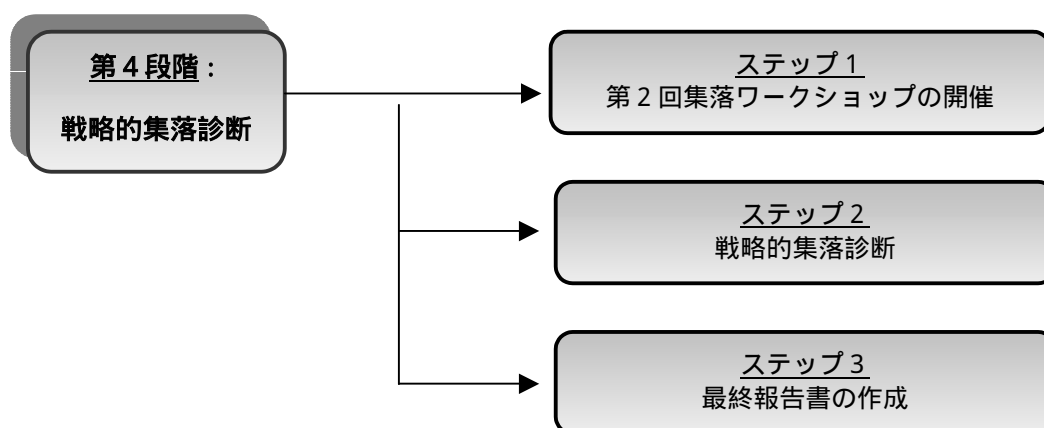
第5章

第4段階 戦略的集落診断

APEC の第4段階では、1) 第3段階において APEC 実施チームが作成した参加型現況調査結果を集落住民と検証し、2) 結果をよく分析した上で戦略的方針を策定し、3) 報告書にまとめなければならない。ここで策定する戦略的方針は、集落開発構想の策定（第6章を参照）に関する次の段階への重要な基本情報となる。

APEC の4段階は次の3つのステップからなる。

フローチャート6 第4段階のステップ



5.1 ステップ1：第2回集落ワークショップの開催

目的

参加型現況調査結果を農民と検証し、集落の主な問題の原因と解決策を明確にすること

APEC の第4段階の第1ステップでは、第2回集落ワークショップを開催する。このワークショップは、APEC 実施チームの現地における最後の活動であるため、この機会を有効に活用しなければならない。

本ワークショップのため、APEC 実施チームは、1) **集落の問題と傾向**を明示した模造紙 2) **問題の原因と地域の「機会」**をまとめたリスト の2つを事前に準備し、両方を基に説明を進める。今回のワークショップは前回と同様に4～5時間程度にする。

本ワークショップは、基本的に前回と同じ方法（W/Sの開会、チームの紹介、目的の説明、グループ構成、グループワーク、全体会議議論）（4.2を参照）を進める。ワークショップの前置き部分に時間をかけず、グループワークおよび全体討議に集中する。

次に、第2回集落ワークショップの具体的な活動内容と、各所要時間を表2に示す。

表2 第2回集落ワークショップの活動内容

時間 (分)	活動	具体的な内容
15	W/Sの開会、目的の説明	W/Sを開会し、目的を説明する。前回のW/Sに関する活動と結果をまとめ、参加者の記憶をリフレッシュさせる。
40	参加型現況調査結果の検証	参加型現況調査結果を全員に発表し、明確にした集落の主な問題点と傾向を全員と検証する。
150	グループワーク	主な問題の原因とその解決策についてグループワークを進める。
20	休憩	
60	全体会議、討議	グループワークの結果を全員に発表し、議論する。
15	調整、W/Sの閉会	第3回集落ワークショップの日程を決め、本ワークショップを閉会する。

❖ W/Sの開会と目的の説明

APEC 実施チームメンバーの自己紹介は前回すでに行っており、集落はすでにメンバーを知っているため、今回のワークショップの前置きは短くする。今回の目的をよく説明し、前回のワークショップの内容を復習し、参加者の記憶をリフレッシュさせる。



カイナカス集落の第2回ワークショップにおいて、「何ができるか」を確認することが重要であった。女性グループによる野菜生産はその機会を捉えた好例となった。

❖ 参加型現況調査結果の検証（問題点、傾向）

APEC 実施チームはここで、分析の結果と、現地活動期間中に明確にした集落の主な問題点と傾向（変化）を発表する。問題と傾向のリストは、社会、経済・生産、自然環境の3つに関連する問題を多くても10点程度含んでいることが望ましい。自然環境に関連する問題の多くは、社会経済的な原因を持つ。これらの原因は、グループワークにおいて挙げられなければならない。

次に、集落の主な問題に関し模造紙に書かれた事例を示す。

集落の主な問題点	傾向	原因	解決策（何が出来るか）
水による土壌侵食	地域には急傾斜地が多く、農家は保全対策に取り組んでいないため、土壌侵食プロセスは悪化する傾向にある。		
家畜に与える草が十分でない	集落で生じている過放牧はコントロールされていないため草が減少し続ける傾向にある。		

グループワークの前に入る前に、発表した主な問題が正しいかを集落住民と検証する。参加型現況調査の結果、集落の主な問題が明確にされるが、本ワークショップで明らかにされる問題もある。この場合、新たな問題をリストに追加するか、他の問題といっしょにしなければならない。

経験

パタリャフタ集落の現地踏査やケーススタディ対象農家のインタビューの際、木を伐採し薪を販売していることを見て、APEC 実施チームは深刻な問題と受け止めた。だが、この問題を集落に発表したら、農家は問題であるとは思っていなかった。木を切って薪を売るとは、お金が緊急に必要なときだけのことであり、売る量は少ないため、問題にはならないと考えていた。



❖ グループワーク

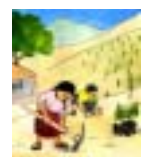
前回と同じ基準を基に、ワークショップ参加者を3、4グループに分け、次に示す内容について議論する。

A) 原因の明確化

各グループにおいて、発表した問題について議論し、原因を明確にする。APEC 実施チームは各問題の原因をすでに整理しているため(APEC の第3段階を参照)、グループが原因の明確化に困っている場合は、ヒントや例を与えながら支援する。

経験

全体会議において、職能研修について議論した。参加者はこれについて、「洋裁や木工以外に、左官工など、農家経済の改善に貢献できるたくさんの職能がある。これらも含んでほしい」と述べた。



自然環境に関する農民の知識が少ないため、この分野に関連する対策の議論では、農民は「土壌を改良するためには何が出来るか」、「水がほしいがどうすればよいか」、「家畜用の草を増やすためにはどうすればよいか」などの質問ばかりを挙げ、なかなか対策が思いつかなかった。このような場合、APEC 実施チームから提案を出すとよい。

B) 問題の解決策（何ができるか）

各グループにおいて、問題を解決するための対策と、明確にされた原因を対応する方法を考える。この活動は、横方向（各原因に対する各解決策を考える）、または縦方向（先に全ての原因を明らかにし、次に全ての対応策を考える）に進めることができる。APEC 実施チームは、グループワークの進行状況を常に監督し必要なサポートをする。

グループワークは、基本的に模造紙とカードを使用し、みんなが参加し意見を述べるように注意して進めなければならない。

次に、パタリヤフタ集落で明らかになった問題、傾向、原因およびその解決策の例を示す。

主な問題	傾 向	原 因	解 決 策
水による土壌侵食	地域は急傾斜地が多く、農家は保全対策を取組んでいないため、土壌侵食プロセスは悪化する傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> - 嵐、強い雨 - 被覆のない裸地 - 耕作に不向きな急傾斜地での耕作 - 土地の利用者が水食に関する意識を持たない - 水土保持対策に関する技術的な情報が普及していない 	<ul style="list-style-type: none"> - 水食をコントロールすることの重要性について農民の意識を高める。 - 水土保持対策に関して農家を指導する。 - 山や急傾斜地を植林する。 - 耕作は急傾斜地でないところにする。
家畜に与える十分な草がない	集落で生じている過放牧はコントロールされていないため草は減少し続ける傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> - 草地面積に対する家畜の頭数が多い - 放牧のコントロールが一切ない、土地を持つ者は保護柵を持たず、放牧する者は注意せず家畜を自由に放牧させる - 過放牧のため牧草は回復することが不可能 - 降水量が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> - 放牧地帯を保護し、使用をコントロールする。 - 過放牧を減少させる - 牧草を植える。

❖ 休憩

グループワークは正午近くに終了するため、参加者の休憩、昼食のために 15 分～20 分の休憩時間を設ける。

❖ 全体会議と討議

グループワーク後、各グループは結果を全体会議で発表する。ここでは、それぞれのグループが異なる意見を持っている場合、結果発表において、内容についてみんなが合意する必要はない。

APEC 実施チームの最終的な責務は、後から最終報告書(5.3 を参照)にまとめることで、ここでの情報を全て整理することである。

本段階の目的は、可能な解決策全てを明確にすることであるため、農民が提案する解決策だけでなく、APEC 実施チームが事前に明確にした解決策も全体会議で発表し、農民に議論させる。

例えば、集落で養蜂を実施することを農民は一度も考えたことはないが、APEC 実施チームは、集落には養蜂に適した条件が揃っていると思えば、これを集落に提案する。

このように、集落の持続的開発につながる対策、地域の「機会」とこれらを活用した活動などを数多くあげていく。そしてこれらは全て、後から APEC 実施チームが策定する戦略的方針(5.2 を参照)への基礎となる。

第 3 回集落ワークショップ(6.1 集落開発計画（構想）の立案を参照)では、戦略的方針を集落と共に検証・決定し、第 4 回集落ワークショップ（集落開発計画の策定）では、それぞれの戦略的方針の中で

集落が実施する具体的な活動について決定する。第4回のワークショップでは、技術員を中心に、集落では何ができるか（対策）について細かくもう一度議論し最終決定を行うため、ここではまだ可能な対策を全て明確にする必要はない。

❖ 調整とW/Sの閉会

全体会議でのディスカッションの後、第2回集落ワークショップを閉会する。議論が残らないため、今後集落で行われる活動について繰り返しよく説明しておく。APEC実施チームの現地における活動は、これで終わる。最終報告書の結果は、技術員を通じて次回のワークショップで発表されることを説明することも重要である。

経験

パタリャフタ集落で開催した第1回集落ワークショップへの女性の参加率は、約50%と有意義であったが、2回目のワークショップではこの半分以下であった。この低下の原因は、女性はワークショップに参加し、自分の意見を述べることに慣れて折らず、発言をいやがっているためと考えられる。

重要なこと！

本段階で予想される問題は次の通りである。

- ・ APEC実施チームが明確にした問題が、集落にとっては問題だと思っていないこと。
- ・ 問題の解決策に関してすでに基準があること。



これらの問題にどう対応するか

APEC実施チームが明確にした問題は、全体会議で集落に発表し、農民に議論させなければならない。チームが挙げる問題は、集落農家の生活に支障を与え、農民も問題であると思っている問題でなければならない。問題は全て模造紙にまとめるが、その際、はっきりと分かりやすく書く。農民全員が集落の問題について同意しなければ、次のステップで行う問題の原因と対策の明確化に進んではならない。

「何ができるか」（対策）の提案は、各グループから挙げてこなければならない。グループが提案する対策は、自然資源に与える影響と女性参加を考慮していなければならない。グループによる提案が困難であれば、参加者の意見にあまり影響を与えないように、APEC実施チームはヒントや例を与え、グループをサポートする。後から、農民が対策に関する責任感を持つようにするため、問題の原因と対策の明確化は農民自身でやらなければならない活動である。

5.2 ステップ2： 戦略的集落診断

👉 目的

これまで収集した全ての情報を戦略的に分析し、結果を基に戦略の方針を策定すること

集落の戦略的診断は、第2回集落ワークショップの後、つまり、必要な情報が全て揃った後に行う。

APEC 実施チームは先ず、第2回集落ワークショップで集めた情報を整理し、集落では実際何ができるか（農民の意見）を明確にする。整理した情報の例を付属資料4にまとめている。



ひとつ重要なこと！

集落がこれまでの結果を把握できるようにするため、APEC 実施チームが作成する最終報告書の一部を集落に提供する。したがって、農民が読んで理解できるように分かりやすいシンプルな報告書を書く必要がある。

整理する全ての情報は、戦略的方針策定への基礎となる。戦略的方針を的確に策定することは、APEC 実施チームの最も重要な業務である。このため、集落の将来の発展に焦点をあてなければならない。つまり、集落の問題とその原因にどのように対応するかを決めなければならない。戦略的方針は複数でも構わないが、どれもが誰でも理解できるようにシンプルでなければならない。また、将来における目標をはっきり指し示す具体的な内容を持つた方針でなければならない。

戦略的方針を策定しやすくするため、社会、経済・生産、自然環境の3項目をもう一度採用することを勧める。第2回集落ワークショップの情報整理を基に、APEC 実施チームは各項目に必要な戦略的方針を明確にする。

次に APEC 実施チームが明確にした戦略的方針の例を示す。

戦略的方針の例

社会分野に関連する方針の例：

- 県内において各種機関が実施する研修を活用する。

経済・生産分野に関連する方針の例：

- 集落において、販売用のモモを持続的に生産する。

自然環境分野に関連する方針の例：

- 水土保全対策に取り組み、農地を保全する。

アドバイス

活動を実施するため、そして実施した活動を成功させるためには、組織がしっかりした集落と、「集落の発展は自分たちの手で」という住民の意識がとても重要である。したがって、APEC の中で重要なひとつの戦略的方針は、集落の組織の強化である。



5.3 ステップ3：最終報告書の作成

👉 目的

よくまとめ上げたシンプルで質の高い最終報告書を作成すること

APEC 実施チームの最後の活動は、最終報告書の作成である。報告書の作成に当たって重要なことは、

(1)よくまとめること(不要な情報は削除する) (2)シンプルにすること(分かりやすく遠回しでない表現を使う) (3)質の高い報告書にすること、である。不要な情報を含まないように、次の表に示す項目にしたがって報告書を作成しなければならない。

報告書の付属資料には、図表、集落の地図や概略絵、現地踏査で作成した横断図などを含める。報告書の挿絵などは、ドラフト版ではなく、専門の人が描いた綺麗な絵を用いる。最終報告書の草稿を、チームメンバー全員で内容を見直し議論することが重要である。こうすれば、報告書全体の調和を崩すようなミスや間違いを発見・修正することができる。

最終報告書の目次(例)

1. はじめに

2. 参加型診断調査

2.1 社会的診断調査

2.1.1 集落の組織：農家組合、集落共同事業、農家の組織化グループなど

2.1.2 教育：学年、学校の先生、大人向けの教育、子供向けの教育など

2.1.3 医療：全体状況、頻度の高い病気、栄養状態、水道水へのアクセスなど

2.1.4 現地で活動する機関：機関名、活動内容、活動手法など

2.1.5 将来における農家の希望：

2.2. 経済・生産に関連する診断調査

2.2.1 土地所有状況、階層別の土地所有面積、土地所有権など

2.2.2 農業生産：耕作作物、採用する技術、生産物の品質など

2.2.3 家畜生産：家畜の種類、家畜頭数、家畜の品質、家畜の健康状態など

2.2.4 その他の生産活動：民芸品、出稼ぎなど

2.2.5 市場と販売：集落へのアクセス状況、流通の可能性、価格など

2.2.6 集落の生産基盤：かんがい施設、水道施設など

2.3. 自然環境関連の診断調査

2.3.1 集落の気候と農生態系地帯

2.3.2 土壌資源：土壌の使用(管理)、現状、使用可能な土地、土壌の質

2.3.3 水資源：水資源の使用(管理)、現状、使用可能な水資源、水資源の質

2.3.4 植生資源：植生資源の使用(管理)、現状、使用可能な植生資源、植生資源の質

3. 戦略的診断

3.1 集落の主な問題・傾向・原因の優先度

3.2 主な問題を解決するために「何ができるか」のまとめ

3.3 分野別の戦略的方針

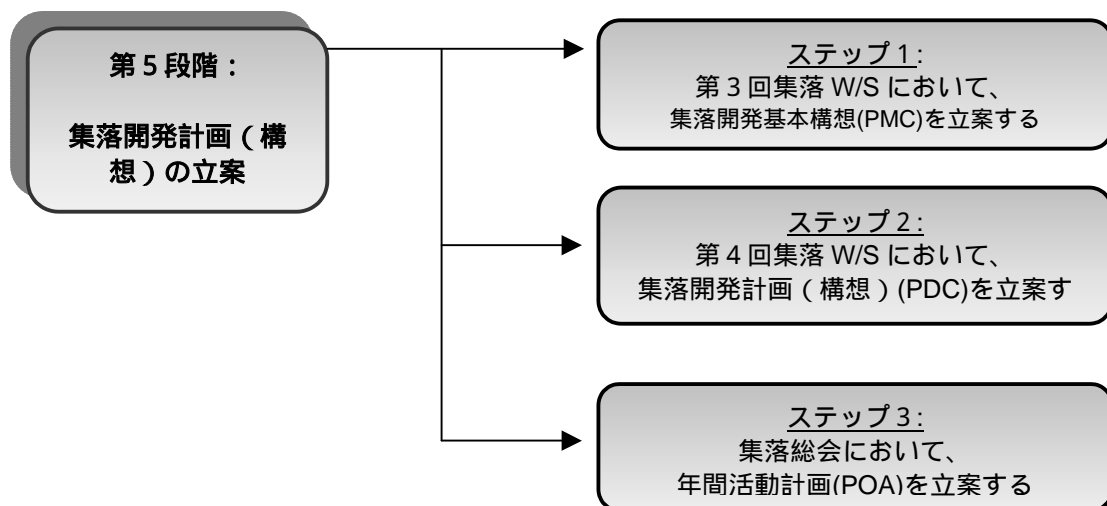
第6章

第5段階：集落開発計画（構想）の立案

APEC の第5段階では、集落の持続的計画（構想）を立案する目的で、技術員を中心に、2つの集落ワークショップを実施する。これまで APEC 実施チームが策定した戦略的方針は、この2つのワークショップへの最も重要なインプットとなる。集落開発基本構想(PMC)の立案の前に、第3回集落ワークショップにおいて、戦略的方針を集落住民と検証する必要がある。集落開発基本構想はその後、集落開発計画（構想）(PDC)の立案(6.2を参照)のインプットとなる。集落開発計画は、戦略的集落診断・構想立案手法(APEC)の最も重要なプロセスのひとつであり、戦略的方針の具体的な活動内容を立案する。そして、集落開発計画(PDC)を基に、技術員の支援を受け集落は、毎年の年間活動計画(POA)(6.3を参照)を立案する。

APEC の第5段階は、次の3ステップからなる。

フローチャート7 第5段階のステップ



6.1 ステップ1：集落開発基本構想(PMC)を立案する

目的

APEC 実施チームが明確にした戦略的方針を基に、集落開発基本構想(PMC)を立案するとともに、集落農民に将来構想図を作画させること

PMC は、集落住民の目的や希望をまとめた長期プランである。つまり、約 10 年間で、集落をどのように変えたいかに関する集落住民の「夢」を反映したプランである。PMC は、集落の現状と地域が持つ「機会」をよく把握している集落でなければ、立案することはできない。本段階で実施する第3回集落ワークショップは、APEC 実施チームが最終報告書を提出した後に、できるだけ早く実施するが、通常、第3回のワークショップは第2回から約1ヶ月後となる。

PMC の主な内容は、現地活動と集落ワークショップ(5.3を参照)を基にして APEC 実施チームが明確にした戦略的方針である。本段階における方針は、集落が持つ問題と「機会」を戦略的に考慮し、何ができるかに関する APEC 実施チームの結論だけに留まり、集落住民とまだ検証していない方針である。

PMC は第3回集落ワークショップにおいて立案する。ワークショップの日程は、前回のワークショップで決められている(5.2を参照)。ワークショップは4～5時間かかり、活動内容は次に示すとおりである。

表3 第3回集落ワークショップの活動内容

期間(分)	活動	具体的な内容
10	W/Sの開会、目的の説明	W/Sを開会し、目的を説明する。前回のW/Sに関する活動と結果をまとめ、参加者の記憶をリフレッシュさせる。
60	戦略的方針の発表と検証	技術員は戦略的方針を集落農民に発表し、全員で内容を検証する。
120	グループワーク： 将来構想図の作画	参加者をグループに分け、各グループに、集落の将来の夢に関する絵(これを将来構想図と呼ぶ)を描かせる。
20	休憩	
60	全体会議、討論	グループワークの結果を全員に発表し、内容を議論し、PMCの内容を決定する。
15	調整、W/Sの閉会	第4回集落ワークショップの日程を決め、ワークショップを閉会する。

❖ W/Sの開会と目的の説明

W/Sの開会は技術員が行う。開会はできるだけ短くし、目的と期待する成果については詳細に説明する。

戦略的方針を発表する前に、これまで実施した活動とそれぞれの重要性を復習し、参加者の記憶をリフレッシュしなければならない。

❖ 戦略的方針の発表と検証

APEC実施チームが作成した戦略的方針は、事前に模造紙にまとめておき、ワークショップにおいて簡潔に発表する。技術員は、戦略的方針を説明し、各方針と集落の発展との関係、方針の相互関係を説明する。

方針の発表後、各々を参加者全員と検証する。グループワークを始める前に、参加者全員が各方針の内容をはっきり把握し、疑問が残らないようにするため、方針の内容について深く議論することが必要である。地域が持つ「機会」を明確にする際にAPEC実施チームが気付かなかった点があることがあり、新たな方針の提案があればリストに追加する。

経験

APEC実施チームは、タラワンカ集落では現在あまり活用されていない女性の労働力を利用し、特に観光者による需要が高いヤンバラ文化の織物生産振興をひとつの方針と考えた。女性は織物生産にはあまり興味がなく、それより国内の他地域に出稼ぎに行くことを考えていた。

❖ グループワークによる将来構想図の作画

前回のワークショップと同様に、グループワークは本ワークショップの中で最も重要な活動である。グループ構成は、これまでと同じ基準に基づき、年輩の男性農家、若い男性農家、女性(人数によってこのグループは年輩の女性と若い女性の2グループに分けることができる)の3つのグループをつくる。

グループワークでは、将来 10 年間に於いて、集落をどのように変えたいかに関する各グループの「夢」を描く。これは PMC を絵にしたものである。グループワークでは、全体会議で検討したばかりの方針に関する活動（絵に表すことが可能な活動）が模造紙に描かれるはずである。

参加者が描く内容について技術員は押しつけてはならない。グループが描きたいように描かせることが戦略的方針の真の最終検証となる。

グループワークでは、どの活動を描くかについてグループメンバーでよく議論した後に、綺麗で完璧な絵を描いてほしいため、グループワークは約 2 時間程度かかる。

❖ 休憩時間

グループワークは正午近くに終わるため、15分から20分の休憩時間を設け、この間にみんなが食事をすると良い。

❖ 全体会議と議論

グループワークを終えれば、各グループが描いた将来構想図をそれぞれ発表する。発表の際、戦略的方針の中でまだ考慮されていなかった活動やテーマが挙げられた場合、技術員はこれらを記録する。各グループが発表した将来構想図について全員で議論しなければならない。将来構想図には各グループのビジョンと重要とする活動が描かれている。各グループは絵の内容を説明し、他グループの質問に答えてもよいが、他グループの意見で絵を変更してはならない。

検証した戦略的方針の中には含まれていなかった活動が将来構想図に現れた場合、その活動について参加者でよく議論し、全員が賛成すれば集落開発基本構想に含む。

方針または具体的な活動について、グループ同士が合意しない場合、全体会議で議論しなければならない。全体会議の目的は、集落が必要とする方針について全員が合意することである。集落住民が合意して得られる方針と活動はその後集落開発基本構想となる。

第3回集落ワークショップの最終成果品は検証済みの戦略的方針すべてをまとめたリストと、各グループが作画した将来構想図である。



非常に多くの活動を含む将来構想図の説明（カイナカス集落）

アドバイス

集落開発基本構想は、集落の定例総会ではなく、特別な総会において立案する必要がある。なぜなら、定例総会でこのような活動を行う場合、グループワーク後参加者は疲れて、議論にはほとんど参加せず、定例会で話さなければならない他のテーマを心配し、基本構想には集中しないからである。

経験

パタリャフタ集落の第3回集落ワークショップには、これまで一度も出席したことのない若い男性農家が数名出席したが、これらの若者はワークショップ中、度々席を外すなどして、他の参加者に不愉快な思いをさせた。この状態でワークショップを進めることが困難であったため、ファシリテータは、「興味がなければ活動を中止する。このことについてみんなでよく考えて話し合ってくれ」と言った結果、若者の態度は変わり、まじめに参加するようになった。

❖ 調整、W/Sの閉会

全体会議での議論の後、集落開発計画(6.2.参照)立案が目的である第4回集落ワークショップ(次で最後のワークショップ)について説明をし、本ワークショップを閉会する。

アドバイス

集落総会における女性の参加を促すためには、意識改革、動機付け、自分の意見を述べるにあたり自信を持たせるようにすることなどが大切である。これを達成するには、「conociendo mi cuerpo」や「la danza de la serpiente」などのグループ活動手法を用いるとよい。

その一方、女性の参加は集落の発展のため極めて重要であり、男性は女性の参加を評価し平等に扱わなければならないことを強調し、男性農家の意識も高めなければならない。

6.2 ステップ2: 第4回集落W/Sにおいて集落開発計画(構想)(PDC)を立案する

🔍 目的

集落開発基本構想で検証した戦略的方針を基に、PDCを立案すること

PDCの内容は、基本構想より具体的であり、基本構想で検証した方針を実施するためには何をしなければならないかを定める中期計画である。中期とは、通常3年から5年で、これは集落で活動する機関の実施期間や次の村政府選出までの期間などによって異なる。集落は、PDCの計画立案を始める前に、計画期間を決めなければならない。

PDCは第4回集落ワークショップにおいて立案する。このワークショップは、基本構想の立案を完成した約1ヵ月後に、基本構想の内容がまだ農民の記憶に残って新鮮である間に実施しなければならない。こうすれば、PDCを円滑に立案することができる。

第4回集落ワークショップは、前回のワークショップと同様4～5時間かかり、活動内容を次に示す。

表4 第4回集落ワークショップの活動内容

時間 (分)	活動	具体的な内容
10	W/Sの開会、目的の説明	W/Sを開会し、目的を説明する。
15	集落開発基本構想(PMC)の発表	技術員は、前回のW/Sで立案したPMCに関して参加者の記憶をリフレッシュさせる。
180	グループワーク	参加者をグループに分け、各グループにおいて、検証したPMCを実現するために必要な具体的な活動、協力機関を明確にする。
20	休憩	
90	全体会議、議論	グループワークの結果を全員に発表し、内容を議論し、集落開発計画(PDC)の内容を決定する。
15	調整、W/Sの閉会	年間活動計画(POA)を立案するワークショップの日程を決め、本ワークショップを閉会する。

❖ W/Sの開会と目的の説明

ワークショップの開会は技術員が行い、できるだけ短時間に、ワークショップの目的と期待する成果をよく説明する。

❖ 集落開発基本構想(PMC)の発表

第4回集落ワークショップの参加者の記憶をリフレッシュするため、第3回目のワークショップの結果である基本構想と検証済み戦略的方針を発表する。このために、技術員は戦略的方針をシンプルかつ分かりやすく模造紙にまとめ、事前に準備しておかなければならない。この発表は、リフレッシュが目的であるので手短かにすませる。

アドバイス

ワークショップでは、ときどき話の内容が分からない人がいる。その原因は、今回初めてワークショップに参加しているか、または親の代理で参加しているからである。そのため、ワークショップの活動を始める前に、前回行った活動や結果を復習するとよい。

❖ グループワーク

PDCの計画立案の本段階では、集落で実施すべき具体的な活動、その優先順位、どの機関に実施を求めるかについて整理しなければならない。この時点では、集落住民の希望が以前より明確なため、PDCは真の集落開発手段となる。

PDCは、村開発計画と関係している。なぜなら、村の予算を用いた各集落の希望事業について村が集落に問い合わせると、集落住民は、集落の開発に直接貢献する事業や活動をすでに決めているため、すぐに回答できる。

今回のグループワークのグループ構成基準は、以前と異なり、性別・年齢別ではなく、地域別にする。PMC立案の段階において、性別・年齢別のグループワークを行ったことで、それぞれのグループの要望が基本構想の戦略的方針の中に考慮された。今度は、具体的な活動とその優先順位を決めるため、地域別のグループで活動する必要がある。次に、これに関連してパタリヤフタ集落で起きたことを紹介する。

経験

パタリヤフタ集落は上流、中流、下流の3地域に分かれている。各地域のニーズは、異なっていた。例えば、下流における優先順位が最も高い活動は、果樹を植えることであった。一方、中流ではため池の建設、上流では農業生産改良が優先的であった。

グループワークを円滑に進めるため、多くても3つのグループを作るとよい。集落が3つ以上の地域に分かれている場合は、3つになるようにいくつかの地域を合体させる。その際、地域同士で共通点があることや住民の意見などを考慮する。

グループ構成後、次に示すテーマについてグループワークを始める。

戦略的方針	→	具体的な活動内容
	→	活動の優先順位
	→	活動を支援する機関

グループワークの結果の一例

戦略的方針	具体的な活動内容	活動の優先順位	活動を支援する機関
水土保持対策を用いて農地を保全する	- 水土保持対策に関する研修を実施する	1	村
	- 水土保持コンクールを毎年実施する	1	
	- 実施した水土保持対策のメンテナンスを行う	2	

具体的な活動内容

各グループは、戦略的方針ひとつひとつに対して、戦略を実現するために必要な具体的活動を示さなければならない。各方針を実現するためには通常複数の活動があるため、各グループは各方針について深く議論しなければならない。

活動の優先順位

これまで挙げた各活動が、地域において、どの程度優先的であるかを各グループ内で決める。活動の優先順位は、高・中・低で評価する。各種機関の支援が限られているため、全ての活動の優先順位が高くなることは、活動の優先順位決定の前に、技術員がよく説明しなければならない。また、ここで立案するPDCは、最終的な計画ではなく、活動の具体的な内容は、集落の年間活動計画(POA)で企画されることも説明しなければならない。全ての活動を一齐に実施することは、不可能である。優先順位は、活動実施の順を示す。これは、活動の実施スケジュールを立てるためのベースであり、このスケジュールはその後、年間活動計画(POA)の立案に利用する。

活動を支援する機関

具体的な各活動を実施するために、どの機関に支援を求めるかを最後に議論する。この段階において、技術員は本活動戦略実施機関の活動範囲を明確に把握しなければならない。実施機関の目的と異なった活動や事業を実施する約束をしてはいけない。活動戦略実施機関が、活動の実施も支援できるのではないかと、農民に誤解が生じることが多くあるが、そうでないことを技術員は明確に説明しなければなら

ない。一定の活動を実施するため、どこかの機関に支援を求めるという業務は集落の責任である。地域において、例えば村のようにすでに活動している機関が存在し、そこに具体的な活動の支援を求める場合、このグループワークでそれを明確に示す。

アドバイス

農民は、優先順位を中または低にすると、その活動は実施されないと考えるため、最初はどの活動も優先順位が高いと示すだろう。

このため技術員は、

- ・ PDC は一定の実施機関の活動計画ではなく、集落の開発計画であること
- ・ 活動が実施されるかどうかは農民が活動に与えた優先順位に依存するのではなく、実施機関に支援を求めるための活動・努力に依存することを農民によく説明しなければならない。

❖ 休憩時間

グループワークは正午近くに終わるので、15分～20分の休憩時間を設け、全員が食事をすると良い。

❖ 全体会議と議論

全体会議では、先ず各グループの結果を発表する。次に、技術員は、方針ごとの活動とその優先順位をまとめ、参加者に議論させる。同じ方針の中に優先順位が高い活動が複数生じることがあるため、各グループが活動に与えた優先順位については深く議論する必要はない。それより重要なのは、1) 集落開発計画(PDC)に含まれる活動内容 2) 活動の実施を支援する機関 について参加者全員が合意することである。集落の年間活動計画を立案するとき、活動の優先順位を再度見直し、次年に具体的にどの活動を実施するかを決定する(6.3.を参照)。各種活動の実施を支援する機関に関する議論では、本活動戦略の実施機関は何を支援することができるか、そして、支援できない活動については集落自身が他の開発機関に支援を要請しなければならないこと、をはっきりと説明する。

アドバイス

他機関の支援について農民を指導するため、技術員は地域で活動している機関と、それぞれの活動内容をよく把握していなければならない

❖ 調整とW/Sの閉会

第4回集落ワークショップの後、今後の活動について話す。技術員は、本ワークショップで立案したPDCの最終版(表17に例を示している)を作成することを集落に約束し、PDCの結果を基に年間活動計画(POA)を立案するためのワークショップの日程を決める。

ステップ3： 集落総会において、集落の年間活動計画(POA)を立案する

👉 目的

集落開発計画(PDC)の結果を基に、1年目のPOAを立案すること

技術員は、PDC 立案後、集落総会において農民が行う POA の立案を支援しなければならない。PDC を立案するときに決めた優先的活動の中から次年度の実施活動を決め、POA を立案する。POA の内容は、集落全体の合意が必要である。

POA を立案するためのはじめの業務は、技術員が第 4 回集落ワークショップの結果(PDC)をよく整理して集落に発表することである。ここで発表する PDC は、集落内の各地域の具体的な活動が含まれていなければならない。それぞれの地域の活動内容に大差がないように、できるだけ同じ内容にしなければならない。PDC の内容を集落に発表すると同時に、検証もしなければならない。

次に、POA の立案にかかるが、これに関係して考慮しなければならないことがひとつある。それは、活動によっては事前の調査などが必要であることである。例えば、水道やかんがい施設建設の場合、事前に FS 調査などを実施する必要がある。したがって、POA に含む活動の実施に必要な事前の活動を明らかにし、これらを企画しなければならない。例えば、水道施設の場合では、1) 水源地(水量)調査、2) FS 調査、3) 地域別農民グループの組織化、などの事前活動が必要である。これまでは、組織をつくること、意識を高めること、調査を実施することなど、実施にかかる前の活動を考慮せず実施したため失敗に至った例が数多く存在する。POA を立案する総会のとき、このような失敗を繰り返さないように事前活動を十分考慮することを、農民に理解させることがとても重要である。必要な事前活動を無視すると、計画する活動は失敗する可能性が強いことを強調する。例えば、水道施設の建設の場合、フィージビリティ(実施の可能性)調査の結果と建設にかかる経費が明確でなければ、建設を始めることはできない。

アドバイス

特に組織がしっかりしていない集落では、どの活動を行う場合でも、集落の組織化は必須の事前活動であることに留意する必要がある。

PDC で優先順位を決めた活動を基に POA を立案するとき、各活動が必要とする事前活動を明確にすることが必要である。この中で、事前活動は長期間要するため、次年度には優先活動を実施することはできず、実施が 1、2 年遅れ、次年度の POA に含まれないケースも生じるだろう。この場合、技術員のモデレータ役はとても重要である。

また、POA を立案する際、集落内の各地域が優先する活動の内容もよく考慮しなければならない。ある地域の優先活動が、他地域では優先的ではないが集落全体に影響する(または集落全体で実施しなければ効果がないなど)場合、活動を実施するかどうかは、集落全体でよく検討して決めなければならない。例えば、有機農業を一定の地域だけで実施し、他地域は翌年実施するということは、望ましくない。

POA の立案のための特別な総会を開く必要はなく、集落の定例総会で十分である。集落住民が議論と意志決定にかかる時間によるが、POA の立案には約 2 時間かかる。村や開発機関は、毎年 1 2 月頃に次年度の計画を立てる。集落の活動実施のための支援要請は、村や開発機関の計画で考慮されるため、POA はこれに合わせて 1 1 月頃に立案が完成することが理想的である。

第7章 結論

戦略的集落診断・計画立案(APEC)を実施することで集落は、将来何をしたいか、集落をどのように変えたいかを初めて明確にし、それに関する資料と将来構想図を得る。APECの事前段階である「持続的農村開発のための基礎づくり」のフェーズにおいて、集落の現状に関する集落住民の認識がある程度高まっていなければ、APECを実施することは困難である。



ひとつ重要なこと!

APECはひとつのプロセスの1段階であり、事前の段階を無視してAPECだけを単独で実施することは全く無意味であることを、よく理解してほしい。

APEC実施チームが持つ重要な責務のひとつは、総合性と相互の補完性を考慮した戦略的活動を提案することである。集落がこれらの活動の中から優先的に実施する活動を決めていく中で、短期間では、これらの活動に総合性がないように見えるが、長期間で見ると、全ての活動実施における総合性が確認できる。

実施する活動の持続性と、各活動間の一貫性および総合性を保障するため、持続的集落開発計画が正しく取り組まれているかを監督する実施機関の役割は絶対に必要である。

活動戦略のフェーズ2では、農家所有地総合計画(PIP)を立案する(PIPに関するガイドブック7を参照)。この目的は、各農家の要望をより詳しく把握することであり、PDCと今後集落で実施する活動の内容に基づく、各農家のための具体的な活動の企画である。また、POAの中で優先された活動は、優先順位にしたがって、グループ共同事業(MIG)と集落共同事業(PIC)の形で実施する。MIGとPICも本活動戦略のフェーズ2において企画する(持続的実施に関するガイドブック8を参照)。そして最後に、水土保全対策の取り組みは優先活動のひとつとして、POAの中に含むべきである。保全対策は、ワークショップ・保全コンクール・農民から農民への指導(水平普及)を通じて普及される(水土保全対策の普及手法のガイドブック6を参照)。

手法ガイドブック 5 付属資料

「現況診断と開発構想立案」手法

目 次

- 1 . ケーススタディの様式.....
- 2 . 戦略的集落分析の結果.....

付属書 1: ケーススタディの様式

Nombre de la familia: Comunidad:

Composición de la familia (miembros que viven en la casa)

Nº	Nombre	Parentesco	Estado civil	Edad (años)				Actividad principal
				< 12	12-35	35-50	> 50	
1								
2								
3								
4								
5								
6								

Datos sociales:

1. **Organización comunal**
(A realizarse con los Informantes Clave "campesinos")
2. **Educación**
(A realizarse con los Informantes Clave "personal de educación")
3. **Salud**
(A realizarse con los Informantes Clave "personal de salud")
4. **Presencia institucional**
(A realizarse con diferentes Informantes Clave)
5. **Expectativas futuras de la familia**

Expectativas a corto plazo	Expectativas a largo plazo

Datos económico-productivos:

1. Tenencia de la tierra (las parcelas más importantes)

Parcela	Superficie	Sistema de tenencia actual	Título	Eventuales problemas o conflictos
1				
2				
3				
4				
5				
6				

2. La producción agrícola

La producción agrícola en los últimos años:									
Cultivo	Opinión del campesino					Tendencia			
	muy bien	bien	regular	mal	muy mal	aumenta	igual	disminuye	
Papa									
Maíz									
Trigo									
.....									
.....									
.....									
Tendencia en ingresos obtenidos de la producción agrícola:									
Problemas:						Causas:			
Oportunidades:									

3. La producción ganadera

Ganado	Canti- dad	Estado del ganado según el campesino					Tendencia		
		muy bien	bien	regular	mal	muy mal	mejora	igual	empeora
Bovino									
Ovino									
Caprino									
Porcinos									
Gallinas									
Tendencia en ingresos obtenidos de la producción ganadera:									
Problemas:							Causas:		
Oportunidades:									

4. Otras actividades de generación de ingresos

Tipo de Actividad	Tiempo Invertido		Tendencia		
	¿quién?	tiempo/año	aumenta	igual	disminuye
.....					
.....					
.....					
Problemas:			Causas:		
Oportunidades:					

5. Infraestructura productiva

Tipo de infraestructura productiva (descripción)	Modalidad de uso (familiar, grupal, comunal)	Problemas y causas
Oportunidades en infraestructura productiva:		

Datos medio-ambientales:

1. **Clima y zonas agroecológicas**
(A realizarse en el Taller Comunal)

2. **El recurso suelo**

Uso	Disponibilidad del recurso suelo			Tendencia		
	poco	suficiente	mucho	aumenta	igual	disminuye
Agrícola						
Pastoreo						
	Calidad del recurso suelo			Tendencia		
	poco	suficiente	mucho	aumenta	igual	disminuye
Agrícola						
Pastoreo						
Problemas principales:				Causas:		
Soluciones aplicadas (ej. prácticas de CSA):				Oportunidades mencionadas:		

3. *El recurso agua*

Uso	Cantidad del recurso agua			Tendencia		
	poco	suficiente	mucho	aumenta	igual	disminuye
Riego						
Doméstico						
Ganado						
Fuente	poco	suficiente	mucho	aumenta	igual	disminuye
Vertientes						
Río						
Quebradas						
Problemas principales:				Causas:		
Soluciones aplicadas (ej. cosecha de agua)::				Oportunidades mencionadas:		

4. *El recurso vegetación*

Tipo de vegetación	Disponibilidad del recurso vegetal			Tendencia		
	poco	suficiente	mucho	aumenta	igual	disminuye
Árboles						
Arbustos						
Pastos						
Plantas						
Problemas principales:				Causas:		
Soluciones aplicadas (ej. prácticas de CSA):				Oportunidades mencionadas:		

付属書 2 :戦略的集落分析の結果

Problemas principales	Tendencias	Causas	¿Qué podemos hacer?
Temática medio-ambiental			
Escasez de agua en las vertientes para el consumo humano y animal.	El caudal del agua en las vertientes tiende a continuar disminuyendo.	<ul style="list-style-type: none"> - Tala y el uso indiscriminado de las especies vegetales. - Disminución de las lluvias y lluvias más intensas e irregulares. - Suelos con poca capacidad de infiltración. 	<ul style="list-style-type: none"> - Uso y manejo racional de las vertientes. - Construcción de atajados. - Construcción de sistemas de agua potable. - Reforestación con especies de la zona.
Erosión hídrica de los suelos.	El proceso de erosión hídrica tiende a continuar ya que los terrenos presentan pendientes fuertes y los comunarios no realizan prácticas de CSA adecuadas.	<ul style="list-style-type: none"> - Lluvias fuertes y tormentosas. - Suelos desprotegidos, sin vegetación. - Cultivo en terrenos marginales y con pendientes considerables. - Poca conciencia entre los usuarios del suelo sobre la erosión hídrica. - No hay información técnica respecto a prácticas de CSA. - Prácticas agrícolas inadecuadas. 	<ul style="list-style-type: none"> - Concienciar sobre la importancia de controlar la erosión hídrica. - Capacitar en la ejecución de prácticas de CSA. - Reforestar las colinas y áreas con mucha pendiente. - Cultivar en terrenos con pendiente suave a moderada. - Realizar prácticas agrícolas adecuadas.
Baja fertilidad de los suelos agrícolas.	La fertilidad de los suelos agrícolas tiende a empobrecerse más.	<ul style="list-style-type: none"> - No se restituyen nutrientes sustraídos (muy poco abono orgánico). - Se cultivan especies esquilmanes. - La erosión hídrica arrastra la capa superficial del suelo. - Las parcelas agrícolas son cultivadas todos los años (sin descanso). - El minifundio y los monocultivos. - No hay información técnica respecto a prácticas agronómicas adecuadas. 	<ul style="list-style-type: none"> - Aplicar abono orgánico a los suelos regularmente. - Realizar prácticas agrícolas con abono vegetal y compost. - Realizar prácticas de CSA. - Mejorar la rotación de cultivos. - Implementar estercoleras y composteras. - Realizar prácticas agronómicas adecuadas.
Baja cobertura vegetal de los suelos.	Mientras no haya mejor protección de la cobertura vegetal, esta continuará degradándose.	<ul style="list-style-type: none"> - Sobrepastoreo en todas partes. - A causa del sobrepastoreo, especies forrajeras no se desarrollan bien, menos logran reproducirse. - Árboles y arbustos son talados sin ser sustituidos. - Aumenta de la demanda de leña. - Precipitaciones pluviales irregulares. 	<ul style="list-style-type: none"> - Sensibilizar y educar a los niños sobre el cuidado de la vegetación. - Reforestar con especies nativas y exóticas. - Cercar las áreas protegidas hasta que se restituya la cobertura vegetal. - Reducir el número de animales. - Proteger y mejorar la cobertura vegetal de especies forrajeras. - Evitar la tala indiscriminada. - Reforestar a través de concursos.
No hay suficiente tierras cultivables.	Las tierras cultivables se degradan hasta ser improductivos, nuevas tierras cultivables no existen. Este proceso continuará.	<ul style="list-style-type: none"> - Uso más intensivo de las tierras cultivables, causando su degradación - Aumenta de la población y demanda de tierras cultivables. - No existen otras parcelas donde puedan cultivar. 	<ul style="list-style-type: none"> - Intensificar el uso de las tierras cultivables existentes, mejorando su fertilidad con más abono orgánico. - Cultivar especies y variedades de ciclo vegetativo más precoz y no esquilmanes. - Buscar áreas cultivables en las comunidades aledañas.
Escasez de leña para combustible.	La leña escasea y debe buscarse en lugares cada vez más lejanos, este proceso continuará.	<ul style="list-style-type: none"> - Tala indiscriminada y progresiva de árboles y arbustos sin reposición. - Mal manejo de árboles energéticos, resultando en que las mismas no pueden recuperarse. - La venta de leña genera ingresos para algunas familias. - Población creciente y mayor demanda de combustible. - Las normas forestales no se cumplen. 	<ul style="list-style-type: none"> - Capacitar en la realización de un manejo adecuado de árboles energéticos (que permite su rebrote) - Promocionar y fomentar el uso y manejo de cocinas mejoradas. - Crear conciencia y educar respecto a la importancia de la vegetación arbórea. - Elaborar un reglamento forestal. - Reforestar con especies leñosas.

Problemas principales	Tendencias	Causas	¿Qué podemos hacer?
No hay suficiente pasto para el ganado.	La disminución de especies forrajeras seguirá, ya que la comunidad no puede controlar el sobrepastoreo.	<ul style="list-style-type: none"> - Demasiados animales en las áreas con especies forrajeras. - Pastoreo no-controlado, no existe protección física ni cuidado. - Los pastos no logran desarrollarse o reproducirse por el sobrepastoreo. - Escasa precipitación pluvial. - Los suelos superficiales no permiten la regeneración de los pastos. 	<ul style="list-style-type: none"> - Proteger y restringir el acceso a las áreas de pastoreo. - Reducir la carga animal en la comunidad. - Sembrar especies forrajeras.
Temática económica			
No hay ingresos por la producción agrícola.	A continuar utilizando la misma semilla, variedades y tecnología tradicional, la producción agrícola no generará excedentes para la venta.	<ul style="list-style-type: none"> - Costumbres ancestrales - Desconocimiento de la existencia y liberación de nuevas variedades. - Escasa información y participación del municipio y otras instancias en actividades agrícolas. - Minifundio. - Suelos pobres y erosionados. - Semilla degenerada. - Poca precipitación pluvial. - No hay información técnica sobre el manejo de la producción. 	<ul style="list-style-type: none"> - Introducción y validación de nuevas semillas y variedades más precoces. - Renovar las variedades que actualmente cultivan. - Diversificar la producción agrícola. - Controlar de manera integral las plagas y enfermedades. - Mejorar la calidad de los suelos. - Asistencia técnica y capacitación.
Falta de recursos económicos para cubrir las demandas básicas de las familia.	La migración al interior del país incrementará sin poder cubrir la falta de recursos económicos.	<ul style="list-style-type: none"> - Pocos ingresos por la venta de productos agropecuarios. - Pocas oportunidades de trabajos no-agropecuarias para generar ingresos. - Las condiciones físicas no permiten incrementar la producción agrícola. - El ganado es demasiado pobre y en mal estado de salud para poder vender a mejores precios. 	<ul style="list-style-type: none"> - Realizar capacitaciones en oficios para hombres y mujeres. - Establecer huertos familiares para producir hortalizas para la venta. - Estudiar la posibilidad de crianza de animales de granja. - Recuperar y mejorar las parcelas cultivables.
Temática social			
La comunidad no cuenta con una buena organización.	Creciente individualismo y desinterés por realizar trabajos comunales.	<ul style="list-style-type: none"> - No hay buenos líderes. - No hay interés por realizar trabajos comunales o grupales. - El sindicato agrario no funciona bien. 	<ul style="list-style-type: none"> - Realizar talleres de sensibilización. - Capacitar a los líderes. - Capacitar a los miembros del sindicato agrario. - Elaborar planes comunales que puedan devolver la motivación a la gente con fines de superación.
Pobre conocimiento de leyes y disposiciones estatales.	Los comunarios seguirán desaprovechando las ventajas y oportunidades en su favor.	<ul style="list-style-type: none"> - Desconocimiento de la existencia de dichas disposiciones. - Falta de información y difusión. - Falta de interés sobre la importancia de las leyes. 	<ul style="list-style-type: none"> - Informar sobre las disposiciones estatales vigentes (Ley del Medio Ambiente, Ley Forestal, INRA, Participación Popular, etc.) - Realizar eventos de capacitación.
Analfabetismo en personas mayores.	No hay interés por parte de estas personas a participar en cursos de alfabetización.	<ul style="list-style-type: none"> - Durante su niñez no existía escuela. - Falta de práctica. - Poca interés de participar en eventos de capacitación. - Poca apoyo y motivación institucional. 	<ul style="list-style-type: none"> - Motivar y concienciar sobre la importancia de saber leer y escribir. - Realizar cursos de alfabetización más entretenidos.

Lineamientos estratégicos identificados:

Área temática medio-ambiental:

- *Conservar los suelos agrícolas con prácticas de CSA.*
- *Optimizar el aprovechamiento del agua.*
- *Reforestar áreas adecuadas con especies energéticas y proteger estas plantaciones.*
- *Sensibilizar a los niños sobre el manejo adecuado de los RR.NN. (Educación Ambiental).*

Área temática económico-productiva:

- *Producir de manera sostenible duraznos y hortalizas en la comunidad para su comercialización.*
- *Generar ingresos a través de la ejecución de oficios.*
- *Reducir la cantidad de ganado en la comunidad y mejorar su calidad hasta condiciones de venta.*
- *Incrementar la producción agrícola mediante su mejoramiento e intensificación en terrenos adecuados.*

Área temática social:

- *Aprovechar las capacitaciones de diferentes instituciones en el tema de fortalecimiento organizacional.*
- *Lograr una buena organización comunal basada en la colaboración.*
- *Planificar el desarrollo comunal entre todos, contar con un buen plan de desarrollo comunal.*

付属書 3 : 集落開発計画(PDC)の例

Lineamiento estratégico	Actividades concretas	Prioridad	Instituciones de ayuda
Aprovechar las capacitaciones de diferentes instituciones en el tema de fortalecimiento organizacional.	<ul style="list-style-type: none"> - Visitar a todas las instituciones que realizan capacitaciones en la zona - Solicitar la realización de estas capacitaciones en la comunidad (sobre todo sobre leyes) 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Lograr una buena organización comunal basada en la colaboración.	<ul style="list-style-type: none"> - Establecer un sindicato agrario responsable y conformado de buenos líderes - Realizar asambleas en fechas fijas - Realizar trimestralmente trabajos comunales 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Planificar el desarrollo comunal entre todos, contar con un buen plan de desarrollo comunal.	<ul style="list-style-type: none"> - Hacer conocer el PDC a toda la comunidad - Elaborar cada año un POA ejecutable - Evaluar frecuentemente el cumplimiento 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Producir de manera sostenible duraznos y hortalizas en la comunidad para su comercialización.	<ul style="list-style-type: none"> - Realizar capacitaciones en el manejo adecuado de huertos horti-frutícolas - Establecer huertos horti-frutícolas - Organizar a todos los productores - Comercializar duraznos en forma organizada 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Generar ingresos a través de la ejecución de oficios.	<ul style="list-style-type: none"> - Realizar capacitaciones en carpintería - Realizar capacitaciones en corte y confección 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p>
Reducir la cantidad de ganado en la comunidad y mejorar su calidad hasta condiciones de venta.	<ul style="list-style-type: none"> - Elaborar un reglamento de manejo de ganado - Reducir la cantidad de ganado - Sembrar áreas de pastoreo y protegerlas - Realizar campañas obligatorias de vacunación - Vender ganado en forma organizada 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Incrementar la producción agrícola mediante su mejoramiento e intensificación en terrenos adecuados.	<ul style="list-style-type: none"> - Realizar capacitaciones en manejo adecuado de los suelos y de los cultivos agrícolas - Sembrar semillas y variedades mejoradas - Sacar de producción terrenos no-productivos - Producir más guano a través de su recolección y producción en estercoleros 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Conservar los suelos agrícolas con prácticas de CSA.	<ul style="list-style-type: none"> - Realizar capacitaciones en CSA - Realizar concursos de CSA anualmente - Realizar el mantenimiento de prácticas de CSA 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Optimizar el aprovechamiento del agua.	<ul style="list-style-type: none"> - Proteger las vertientes existentes - Construir atajados técnicamente correctos - Realizar un estudio de riego 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">1</p>	
Reforestar áreas adecuadas con especies energéticas y proteger estas plantaciones.	<ul style="list-style-type: none"> - Elaborar un reglamento forestal comunal - Capacitar viveristas en producción forestal - Capacitarse en el manejo forestal adecuado - Establecer viveros familiares - Producir plantas de especies energéticas - Realizar la reforestación masiva en terrenos adecuados (concursos y trabajos comunales) 	<p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">1</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">2</p>
Sensibilizar a los niños sobre el manejo adecuado de los RR.NN.	<ul style="list-style-type: none"> - Realizar capacitaciones en la escuela - Realizar concursos con los niños - Establecer un huerto escolar 	<p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">2</p>